

活動年鑑 6



2010年6月～2011年5月



**社団法人日本技術士会
青年技術士交流実行委員会**



目次

| | |
|-------------------------|----|
| 巻頭言 青年技術士交流実行委員会に期待すること | 1 |
| 公益社団法人 日本技術士会 会長 内村 好 | |
| 2010 年度活動報告 | 2 |
| 青年技術士交流実行委員会 | |
| 例会活動報告 | 4 |
| 支部交流活動報告 | 20 |
| 国際交流活動報告 | 52 |
| その他の活動 | 63 |
| メンバー紹介 | 65 |

青年技術士交流実行委員会に期待すること

公益社団法人日本技術士会

会長 内村 好



「青年」とは

対外的な発言として日本技術士会の青年技術士交流実行委員会(略称、青年委員会)の話をすると思議な反応を受けることがままあります。さらに 45 歳未満が委員ですと付け加えると微苦笑を加えた反応に変わります。広辞苑によると「青年＝青春期の男女、多く 14, 5 歳から 24, 5 歳の男子をいう」とあり、微苦笑の由来もそのあたりにあるのでしょうか。しかしながら、青年委員会は、日本技術士会の設立から7年遅れた 1959 年に「青年技術士懇談会」として発足し、青年商工会議所(当時)の運営に習ったこと、その後の活動内容を説明すると理解してもらえます。青年技術士とは「青年の志を持った技術士」で本来年齢に拘らない人々のことを言うのでしょうか。

日本技術士会の会員の平均年齢は 58 歳で、青年委員会の年齢制限である 45 歳未満の会員の割合は 25% に止まっています。平成 22 年度の二次試験合格者の平均年齢は 42 歳で 50 歳未満の割合は 81% ですので、年齢に拘らないと言いましたが、技術士会はもっと若返る可能性を持っていますし、そのために魅力ある活動を行う必要を感じます。

次のステップへ向けて

2005 年には「青年技術士交流実行委員会」へと発展的に組織変更しました。その設立趣旨として「本会の運営についての企画・立案に対する若手技術士層としての積極的な参画・協力、若手技術士向けを中心とした研鑽事業の企画・実施、各支部における若手技術士グループとの交流による研鑽活動の活性化、若手技術士としての国際交流を目的とし活動する」とこととされており、高橋前会長は青年委員会 50 周年記念誌に、青年委員会の役割として、①部門を越えた横の連携、②若手技術士の会員化、③技術士会の国際活動への支援、の三点を挙げられておりますが、私も全く同意見ですし、現在の青年委員会の活動内容を振り返るとその趣旨に合致していると思います。是非、今後も現在の活動を継続されると共に、いずれ時期が到来すれば「交流実行委員会」ではなく、むしろ略称の「青年委員会」が相応しいような活動を展開されることを期待しております。

日本技術士会は 2011 年設立 60 周年を迎えました。会長就任に当たって先輩諸氏が築き上げられた「伝統」を尊重しつつ、科学技術の進歩や社会の変化にも対応した次の 60 年へ向けての「革新」を目指すこととしました。是非とも「青年の志を持った技術士」の提案と参画をお願いします。

青年技術士交流実行委員会 2010 年度活動報告

本委員会は、研修委員会の下部組織であり、各部会から推薦された委員、委員補佐により構成されています。委員には各支部から推薦された支部委員も含まれます(補足:日本技術士会の公益法人認定に伴い、2011 年度 7 月より従来の支部は地域本部に改名されました)。

本会運営への青年層の参画及び国内外を問わず技術者間の“交流”を通しての研鑽を実施しています。

2010 年度の主な活動を下記にまとめます。

1. 特別例会

2011 年 4 月 23 日、青年技術士交流実行委員会主催『1・2次試験合格歓迎会および青年技術士展』では各部会からの出席者(14名)による活動紹介の機会を設けると共に、東日本大震災をテーマとしたディスカッションを参加者全員で行いました。4 つのテーマに別れて行ったディスカッションの成果は展示すると共に、委員会HPに公開を行っています。

2. 若手技術者の国際交流活動

2010 年 10 月 16 日～18 日に下関市および北九州市で開催された日韓技術士会議の青年分科会、サッカー親善試合に参加しました。

2010 年 11 月 30 日～12 月 2 日にベトナムで開催された ASEAN 技術者協会連合『YEAFFEO17』への参加の支援をしました。3 名の会員を派遣し、2011 年 2 月 26 日の国際交流成果発表会で『YEAFFEO17』の参加報告会を行いました。

2011 年 2 月 18 日～20 日、青年技術士交流実行委員会より 3 名を香港に派遣しました。香港工程師學會を表敬訪問し、青年技術士会とのディスカッション、テクニカル・カルチャーツアー、ウェルカムパーティなどの交流を実施しました。来年は香港工程師學會からの訪日を受けて、交流例会を実施する予定です。

3. 若手技術者向け研鑽事業

講演会・勉強会 5 回、テクノツーリズム 4 回、スポーツ交流含む交流会 4 回、国際交流成果発表会を実施しました。派遣外部講師の招聘や部会・県技術士会の協力・後援等も得られました。また、2011 年 1 月 8 日に開催された北関東地区の原子力・放射線部門の技術者を中心とした新年恒例行事に参加する際には、青年委員からも講演者として参加する機会も得られました。

2011 年 1 月 29 日開催の技術士第一次試験合格者歓迎会・JABEE 修了見込者ガイダンスにおいて、パネルディスカッションを企画・開催しました。

4. 各支部青年技術士組織との交流

本支部交流会議を開催するとともに、四日市市で開催された技術士全国大会において青年技術士本支部懇親会を実施しました。青年技術士交流会誌を作成および配布しました。来年度以降開催される全国大会においても、各組織との交流を継続する予定です。

2010年12月25日には北陸支部とTV会議を合同で企画し、10月に開催された日韓技術士会および初勝利を勝ち取ったサッカー親善試合について報告会を実施しました。

5. 新たな情報配信の試み

青年委員会活動をより深く身近に理解していただくために、2009年度青年技術士交流実行委員会活動年鑑を制作し、青年技術士交流実行委員会のホームページ及び活動毎のブログを運営しております。さらに東日本大震災以降は、青年技術士交流実行委員会有志で技術者からの災害支援ブログを開設し、2011年3月21日より技術者の立場から役に立つ情報を発信してきました。

また、2008年11月より支部に毎月配信しているニュースレターについて、各支部からの情報についても一部配信を始めました。

6. 委員会の運営・企画・管理および広報活動

上記の活動を企画・実施するため、毎月定例会議(運営委員会)を青年層の参加しやすい土曜日を中心に開催し、またskypeを利用した会議も活動への参画促進の一助となっております。また、2010年11月度の運営委員会より公開形式とし、青年委員以外の方も参加できる形態としました。

サーバーを利用して会議・例会への出欠管理や意見交換を行い、また議事録・資料等をデータベースにて保存管理することで運営の利便性や継続性、活性化を図っております。

また、さらなる委員会活動の充実を図ることを目的に、例会企画案のコンペを実施しました。コンペの結果、三つの企画が選抜され、今年度より実際の活動段階に移っており、その中の一つは全国大会時にテクノツーリズムとして実施されます。

その他、国際交流や活動紹介のポスターを作成し、活動報告書と共に合格者歓迎会等で展示をしております。これらのポスターは単なる活動の概要ではなく、各国青年技術者の写真の活用や、アバター(似顔絵イラスト)を利用したメンバー紹介など、人を前面に出したPRを行うことにより、交流の楽しさを通じて技術士会への敷居の低さを実感できるようにしました。

以上。

例会活動報告

例会グループ活動報告(2010年6月～2011年05月)

例会グループリーダー 山中 淳至

1. メンバー

山中、横井、北條、関、松永、石井

2. 今期の活動

1. 例会:平成22年度は青年委員会としての研鑽活動の方向性や例会企画のコンセプトを委員間で共有するため、10月に委員が集まって合宿を実施した。以後は8月全国大会を視野に例会を企画した。3月の震災以降は、震災を加味して企画した。
2. サッカー/フットサル:国際交流と支部交流を目的に、日韓技術士サッカー大会の初勝利を目標に定め、メンバーの技術・体力の向上を図るための練習会とチームワークの充実を図るための北陸支部の合同練習を実施した。

3. 成果

① 例会

10月に開催した委員合宿では平成23年8月の全国大会のテーマ「地球再生へのメッセージ～世界・アジア・日本における技術士の役割～」をコンセプトとした、原則参加型の例会を企画することとし、翌11月にはそれを踏まえた例会企画のコンペを実施した。発表された企画は今後適宜実施していく。震災を受け実施した4月特別例会でのディスカッションでは多くの参加者が集まり熱気のある活発な議論がなされた。

| 開催日 | 開催名(テーマ) | 人数 |
|--------|--|---------|
| 08月08日 | 自己紹介・業務紹介プレゼン | 11 |
| 08月08日 | ビアパーティー | 20 |
| 11月27日 | 11月ミニ例会企画「例会企画コンペ」 | 17 |
| 12月25日 | 日韓交流報告会と北陸支部とのTV会議 | 15 *1 |
| 01月29日 | 平成22年度 技術士第一次試験合格者・JABEE 修了見込者ガイダンス | 約240 *2 |
| 02月26日 | 国際交流活動報告会 | 18 |
| 04月23日 | 4月特別例会(1次・2次試験合格者歓迎会&青年技術士展2011) ディスカッション「『技術士になった』自分に何が出来、またどうして行くか」 | 71 |
| 05月28日 | 『東京里海エイド』(テクノツーリズム企画案の検討) | 18 |

*1)北陸支部との合同開催

*2)主催:修習技術者支援実行委員会 共催:青年技術士交流実行委員会

② サッカー/フットサル

個人の技術や体力も徐々に上がってきていると共に、チーム内の交流も図れてきている。下関市で行われた日韓技術士サッカー大会では6回目の開催にして、韓国から初めて勝利した。

| 開催日 | 開催名(内容) | 場所 | 人数 |
|--------|---------------------|--------|-------|
| 06月12日 | フットサル練習会 | 東京都江東区 | 15 |
| 08月28日 | サッカー交流会 | 新潟県新潟市 | 43 *3 |
| 10月16日 | 日韓親善サッカー大会(第6回、初勝利) | 山口県下関市 | 31 |
| 12月04日 | サッカー交流会 | 栃木県西方町 | 18 *3 |

*1)北陸支部との合同練習

4. 今後の展開

青年層に魅力のある研鑽活動(例会)を企画するため、新・現委員で委員会の活動の目的と目標について意識合わせを行う。また、過去の活動結果を踏まえて企画内容を向上させて行く。

サッカー/フットサルは、国際・支部との交流手段として有効になるように、努めて行く。

青年技術士交流実行委員会 活動報告

報告日:2010年8月10日

| | |
|-------------------|-------------------------|
| 行事名 | 8月例会:自己紹介・業務紹介プレゼン |
| 日時 | 平成22年8月8日 14:30~17:30 |
| 場所 | 自由学園 明日館 Rm1921 (東京・目白) |
| 講師、発表者 | 発表者:参加者10名 |
| 担当者: (○印:リーダー) | ○松永 温史、根本 英俊(記) |
| 参加者数 | 例会:11名(内委員 8名) |

1. 背景・目的

各自自由形式の資料等を用いて自己紹介または業務紹介のプレゼン及び質疑を実施。プレゼンのトレーニングを行うと共に、お互いの業務や興味のあることを紹介することにより相互の親睦を図る。

また、二十世紀を代表する建築家フランク・ロイド・ライトの設計の、明日館(重要文化財)のテクノロジーリズムを兼ねる。

2. 例会内容

1921年設立のレトロで美しい明日館の内部及び庭園を見学のあと、松永さんの司会によりプレゼンを開始した。

1. 竹市さん 回覧資料による業務紹介 石油貯蔵船の点検保守業務概要
2. 根本 配布資料による業務紹介 中国業務を通じて感じた日本の製造業の強みについて。
3. 春日さん 配布資料による経歴紹介 人的ネットワークを広げるために技術士取得したことなど
4. 横井さん PDFによる「私の大事の思うこと」紹介 記録によるダイエット(健康、時間、お金)事例紹介
5. 山中さん PPTによる業務紹介 核燃料サイクル(プルサーマル)とガラス溶融炉にかんする検討紹介
6. 中村さん PPTによる業務紹介 天然ガスパイプラインの設計
7. 松本さん PPTによる自己紹介及び業務紹介 米国留学経験、IRFでの業務、米フロリダでの橋梁劣化評価業務 青年委員会での国際交流とエンジニアの国際化について。
8. 松永さん PPTによる業務紹介 駐車場の設計業務事例
9. 三留さん PPTによる研究内容紹介 ATP合成酵素の構造解析証明(たんぱく質融合技術)
10. 田村さん PPTによる経歴と業務紹介 カーボンオフセット、カーボンマネジメント事業について。

3. 成果と所感

- 普段、委員同士の自己紹介、業務紹介を行う機会は少ないため、昨年に続き、年度切り替え時期に合わせて相互紹介のための場を設けた。
- 各人の専門的な業務内容紹介及び経歴紹介は興味を引くものが多く、質疑も活発になされていた。
- 発表時間5分/人という目安であったが、余裕を持った時間設定にもかかわらず質疑も含め大幅に予定時間をオーバーし、不足気味であった。プレゼンの研鑽のためには時間厳守の周知とタイムキーパー等の準備が必要かと思う。
- 歴史的建造物のテクノロジーリズムを兼ねたためか、御家族同伴もあり、技術士知ってもらうには、良い機会であったと考える。

4. 今後の展開

多彩で興味深い業務経験を持つスタッフが多数居り、委員のプレゼンを中心とした例会企画も可能かと考える。

以上

青年技術士交流実行委員会 活動報告

報告日:2010 年 9 月 15 日

| | |
|-------------------|---|
| 行事名 | 8 月例会:ビアパーティ |
| 日時 | 平成 22 年 8 月 8 日 18:00~21:00 |
| 場所 | 個室 DINING 一粋 -IKKI-池袋店 東京都豊島区南池袋 1-16-18 フェイス池袋 4F |
| 担当者: (○印:リーダー) | ○三留規誉 |
| 参加者数 | 例会:20名(内委員 9名) |

1. 背景・目的

青年委員会は、真夏の 8 月例会では、ビアパーティを開催している。これは、青年委員会 30 年の歴史を誇る交流会である。近年、技術士第二次試験終了後の夕方から開催し、受験生からの参加も可能に設定している。青年層の交流を目的とする。

2. 例会内容

今年は、第 2 次試験会場からアクセスの良い池袋の居酒屋の個室で開催した。料理とお酒を楽しみながら、青年層の交流を行った。

3. 成果と所感

参加者には、二次試験の受験を終えて駆けつけてくれたかたがおられた。委員の新家族も参加し、盛況であった。

総合監理部門の問題やメリットが話題になり、取得未定の参加者が取得に向けた勉強法を質問していた。また、職場の同僚技術士を連れて来てくれたかたもおられた。多彩な経歴のかたがたが集まり、会は盛り上がり、時間切れが惜しまれた。

4. 今後の展開

青年委員会のビアパーティは、30 年以上の歴史がある恒例行事であるので、今後も継続して開催したい。

青年技術士交流実行委員会 活動報告

報告日:2010年9月**日

| | |
|------------------|----------------------|
| 行事名 | 北陸支部とのサッカー交流会 |
| 日時 | 平成 22 年 8 月 28 日 (土) |
| 場所 | 新潟県スポーツ公園(芝生) |
| 担当者: (○印:リーダ) | ○山中、江川、末廣(記) |
| 参加者数 | 43名(内 関東11名、北陸32名) |

1. 背景・目的

日韓技術士会議でのサッカー交流がきっかけで、若手技術者層との交流を深める例会となる。その後、関東の枠組みをこえて北陸支部との交流も最近では多くなり、若手技術士層のコミュニケーションの幅を広げる例会になってきている。北陸支部と関東地域の青年層によるサッカー(or フットサル)交流は、毎年数回行われている。今回のサッカー交流会は、新潟に招待を受け、テクノツーリズムと併せての例会となった。

2. 例会内容

2.1 サッカー交流会

場所は、東北電力ビッグスワンスタジアム横のグラウンド、新潟県スポーツ公園で行った。設備も整ったグラウンドで、東京より爽やかな風が吹く中、北陸支部から 32 名、関東から 11 名が参加した。

北陸ではサッカー活動が盛んなこともあり、サッカー交流のある新潟大学からも、多くの方に参加いただいた。参加者は新潟 2 チーム、関東 1 チームを基本としたが、互いのメンバーを入れ替えながら、交流を図った。日韓戦を控えた最後の合同練習ということもあり、参加者は大いに体を動かし、積極的にプレーを楽しんだ。後半、男性陣の疲れが見え始めたところに女性陣も参加し、得点の獲得に貢献した。

サッカー交流会の MVP は、北陸支部から 1 得点 3 アシストと大活躍の鈴木直人さん、本部からは左サイドから積極的に攻撃参加し、2 得点した松岡大祐さんが選ばれた。

2.2 懇親会

サッカーでよく運動した後は、各自宿泊先で汗を流し、ホテル日航で懇親会を実施。新潟一のホテルでの美味しい料理に舌鼓を打ちながら、サッカーで盛り上がった話や翌日に控えているテクノツーリズムの話を中心に、北陸の青年技術者と関東の青年技術者でコミュニケーションを深めた。

また、懇親会では技術士会の日韓技術士会議実効委員長であり、北陸支部長でもある中山氏、副支部長の大谷氏や新潟県代表幹事の佐藤氏等の諸先輩方の参加もあり、興味深い話をうかがうことが出来た。ホテル日航での懇親会の後も、引き続き居酒屋をはしごし、新潟の美味なお酒と名物料理(茶豆、ノドクロ、栃尾の油揚げ等)を交えながら、参加者それぞれの技術に対する考えや来たる日韓戦に対する意気込みについて熱く議論し、大いに盛り上がった。

3. 成果と所感

- 北陸支部と関東の本支部の壁を越えたチームプレイには、きたる日韓戦への手ごたえを感じた。
- 北陸支部においては、大学生から大先輩まで、幅広い世代の方に参加いただき、技術士会の層の厚さを実感した。サッカー交流は多くの方に気軽に参加頂ける機会として、今後も若手技術者の積極的な参加を促したい。
- 北陸支部ではサッカー参加者から3名の二次試験合格者があった模様。サッカー以外にも頑張っているということを知り、いい刺激を受けた。

4. 今後の展開

- サッカー交流は若手技術者層の参加が多いため、テクノツーリズムも併せて開催することにより、サッカーだけではなく青年委員会や技術士会へ参加していくきっかけとなることを期待している。そのためにも、今後も積極的にテクノツーリズムと併せてのサッカー交流会も開催したい。
- 北陸支部では技術士や技術士補でない社内の同僚や学生の参加なども多い。このような活動を通じて技術士を知ってもらい、技術士を目指すきっかけとなることを期待したい。

青年技術士交流実行委員会 活動報告

報告日:2010年9月17日

| | |
|-------------------|---|
| 行事名 | 北陸支部との合同テクノツーリズム 「地質を調査すること ―過去から現在を知り、未来を予測する―」 |
| 日時 | 平成 22 年 8 月 29 日 (日) |
| 場所 | 技術士センタービルⅡ、早出川上流 |
| 担当者: (○印:リーダー) | ○山中、江川、末廣(記) |
| 参加者数 | 24名(内 関東5名、北陸16名) |

1. 背景・目的

新潟の代表的な地質であるフォッサマグナ等について、講演と現地見学を通して体感することにより、地質学全般への理解を深める。

2. 例会内容**2. 1. 発表会「地質を調査すること ―過去から現在を知り、未来を予測する―」****株式会社キタック 江川千洋氏**

地質とは何か、地質の法則など、地質学の基礎や新潟の地質について説明いただき、ご自身が経験したユニークな地質調査についてご説明いただいた。地質とは、過去のある時点に起きた自然現象を記録したものであり、地質の法則を知ることにより、過去や未来を想定することが可能であること、自然由来の重金属の分布状況を地質の分布と併せて推定することが可能であることなど、大変興味深い講義を聴くことができた。

2. 2. 質疑応答

<Q&A>

Q: 自然由来の重金属の分布状況の調査は全国のどの程度の範囲で行われているのか。

A: 調査が最初に行われたのが 1980 年代であり、2000 年代から大規模に調査が行われた。かなり新しい調査であるため、全国的にはかなり限られた範囲でしかなされていない。

ただし、自然由来の重金属は、基本的には山で昔火山だった地域でしか基本的には分布していない。

2. 3. 現地見学会

新潟の地質のなりたちには思いをはせながら、阿賀野川河川敷、早出川上流で現地見学を行った。昼食は早出川上流の河川敷でとり、清流で涼みながら、太古から続く日本の自然の豊かさを学び、体感した。

3. 成果と所感

- 講義の後に実際の地質を体感でき、非常に有意義なテクノツーリズムであった。また、発表者の江川氏には発表資料や現地見学先など、入念に準備いただき、今後の関東での例会活動の参考になる点も数多くあった。
- 東京開催だと参加のしやすさがあるが、地方開催を組み合わせることにより、内容の幅が広がり、多くの方との交流を図ることが可能と考えられる。

4. 今後の展開

- サッカー交流は若手技術者層の参加が多いため、テクノツーリズムも併せて開催することにより、サッカーだけではなく青年委員会や技術士会へ参加していくきっかけとなることを期待している。そのためにも、今後も積極的にテクノツーリズムと併せてのサッカー交流会も開催したい。
- テクノツーリズムも都内だけではなく、地方での開催も視野に入れ、幅広い内容を企画したい。

青年技術士交流実行委員会 活動報告

| | |
|-------------------|----------------------------|
| 行事名 | 11月ミニ例会企画「例会企画コンペ」 |
| 日時 | 平成22年11月27日(土) 13:15~17:00 |
| 場所 | 日本技術士会 葦手第二ビル5階 C,D会議室 |
| 講師、発表者 | 10名(別表参照) |
| 担当者: (○印:リーダー) | ○末廣(記)、山中、山地、根本 |
| 参加者数 | 17名(うち、企画の事前提出のみ4名) |

1. 背景・目的

青年委員会の例会の目的を再確認した結果、主に若手技術士の研鑽を基とした企画を興して実施することにより、青年委員会に対する賛同者を増やし、あるいはその活動に対する満足度を高めることであると確認された。そのため、例会は参加者のニーズに合ったもの、共に参加出来るものが望ましいが、具体的な企画内容の立案についてはまだ模索している段階である。

そこで内外を問わず例会企画を広く募り、例会企画の具体案を探索する。企画発表についてはコンペティションを行うことで、例会の目的によりふさわしい企画案の絞り込みを行うとともに、発表者のプレゼン能力を発揮する、あるいは試す場を提供する。

また、同日併せて開催される運営委員会に傍聴席を設けて公開実施し、青年委員会活動の理解と賛同を得る機会を提供する。

2. 例会内容

2. 1. 例会企画コンペ(司会:根本)

表1に示す内容で、口頭発表6名、企画提出のみ4名の計10名が例会企画について発表した。

提出された企画は、発表者も含めた参加者により、タイトルから受ける印象、企画内容を「面白そう、有意義である、参加したい」という観点のもとそれぞれ4段階で評価され、総合得点により競われた。プレゼンは発表3分、質疑2分で行われ、発表者は短い時間の中それぞれのスタイルで企画の魅力についてPRをし、質疑も活発に交わされた。結果は同じく表1に示すとおりであり、鳶田氏による「ニセ科学の現状と技術士の役割」が一位を獲得した。

2. 2. 最近実施の例会内容紹介(山地)

青年委員会が近年開催した例会を、「時代先取り型」、「自己研鑽型」、「よく学びよく楽しむ型」に分類し、内容について紹介した。

3. 成果と所感

青年委員会OBなど、外部の方からも参加があり、本ミニ例会自体も興味をもたれやすい企画と感じた。青年委員自身が企画を自ら考える、いいきっかけとなった。

4. 今後の展開

順位の高かった企画について検討を実施し、今後の例会イベント開催に繋げる。

橋爪氏企画の「東京里海エイド」については5月例会にて開催予定。

表 1 例会企画発表一覧(1-●口頭発表あり、2-● 企画提出のみ(口頭発表なし))

| 順位 | NO. | タイトル | 発表者 | 内容 |
|----|-----|----------------------------------|--------|---|
| | 1-1 | 日本技術士会を深く知ろう！ ― 事務局との意見交換会 ― | 石井 利教 | 1. 日本技術士会の組織についての解説(事務局) 2. グループに分かれ、フリーディスカッション。 3. グループ毎の発表:「青年技術士(修習技術者)から日本技術士会への提言」 4. 終了後は懇親会などを企画し、肩の力を抜いた自然な議論も行う。 |
| | 1-2 | 「地球温暖化対策中長期ロードマップ」への貢献 | 春日 桂一郎 | 「地球温暖化対策に係る中長期ロードマップ(環境大臣試案)」について、講師から説明を受ける。 出席者を4名程度のグループに分け、本ロードマップに対する意見・提案をまとめる。 グループ毎に、意見・提案を発表し、講師を含めて全員で議論する。 ●講師には、環境省地球環境局地球温暖化対策課の課長or課長代理を招聘する● |
| | 1-3 | 【ミニ例会】国際エンジニアをめざそう！ | 横田幸利 | 第一部 講演「(仮)APECエンジニアの取得を目指して」 ・国際エンジニアとしての業務や体験 ・APECエンジニア目指そうと思ったきっかけ、資格の取り方、継続の仕方など 第二部 懇談会 講師を囲んで、雑談形式で質疑等を行いながら交流を深める |
| 2 | 1-4 | (仮)青年技術士会発:東京里海エイド | 橋爪慶介 | ・「西なぎさ発:東京里海エイド」の活動を通じて得た漂流ゴミの情報からトレーサビリティや分析をおこない、拡大生産者責任の考えのもと起因者に無理なく問題解決させる手段や効率のよい社会基盤のシステムや仕組み、新しいアイデアを議論&創出し、社会に提案していく。 ・各自の専門分野別に漂流ゴミの根本的解決にむけての提案をアウトプットし、それについてワーキング(例会)により、プレーストリーミングをおこない、実現可能性の高いものにスキルアップさせ、提案を実現に向けて展開させる。 ※参考→「西なぎさ発:東京里海エイド」WEBで検索を！(ブログで活動内容も！) |
| 3 | 1-5 | MOT実務家教員との議論を通じて、日本の技術経営のあり方を考える | 武井 遼 | ・ 知的財産戦略について考える 企業における知的財産戦略を、様々なケースに応じて取りうる対応について実例を用いて議論する ・ 技術者の立場で安全・リスクについて考える 事件・事故の実例を技術的な観点から解析し、技術者としてどの様に取り組むべきかを倫理面を含めて議論する |
| 1 | 1-6 | 二セ科学の現状と技術士の役割 | 鳶田 泰彦 | ・第一部 講演(1~2名) 二セ科学の現状と論点―どのように日常に入り込んでいるのか？ ・第二部 グループ討論 数かずつのグループに分けて討論。テーマは、技術者の社会貢献としてできること。職務上でそうした事態に遭遇したら、といったこと。 |
| | 2-1 | 青年技術者よ、世界で活躍する技術者になろう！ | 齊藤 義順 | 第1部 話題提供 1. シリコンバレーから発する。「先導する米国イノベーション企業・政府」日本技術士会化学部会 齊藤義順 2. アジアの環境の現状と将来 外務省関連機関(インド政府出向者) 3. 日本企業で日本技術者と働いて「日本人技術者の良さと改善点」 米国現地法人から日本本社生産技術部門への出向米国人 コーディネーター:齊藤義順 尚、例会の時間により話題提供1~3を調整する。 第2部 懇親会:話題提供者を囲んでの言いたい、聞きたい放題 |
| | 2-2 | 徹底討論！理系VS文系！ | 末廣 多恵子 | 第1部 話題提供~地球再生へ向けたそれぞれの取り組み~ ・プレゼン(各人の活動紹介)(理系代表、文系代表1名ずつ) 第2部 グループディスカッション ・題名:「地球再生」への手法検討 ・4~5人のグループで討論、結果をグループごとに発表 第3部 懇親会 ・お酒を交えて。。。 ※「中小企業診断士」「Crossover21」等と協賛 |
| | 2-3 | 人を育てるとは~人材育成とコーチング~ | 山中 淳至 | 第1部 事例紹介(先輩技術士の指導経験、指導するにあたり気をつけていることなど) 企業内技術士 公務員技術士(官公庁など) 研究機関・教育関係技術士(研究所や大学など) 独立技術士 第2部 講演とロールプレイング 講師によるコーチングに関する講演(事例紹介の考察も含め)とロールプレイング 第3部 ディスカッション+懇親会 |
| | 2-4 | プロジェクト・サイクル・マネジメント講習 | 渡邊 弘毅 | PCMの中でも、「参加型計画手法」を身につけ、委員や参加者が議論の「見える化」を実践できるようにする。 PCMは「プロジェクト・デザイン・マトリックス(PDM)」と呼ばれるプロジェクト概要表を用いて運営管理する手法で、PDMはプロジェクト計画を構成する「目標」、「活動」、「投入」等を含み、それらの論理的な相関関係を示すものである。 PCM手法の例会は講義・演習形式で行う。 |

青年技術士交流実行委員会 活動報告

報告日:2011 年 1 月 22 日

| | |
|------------------|-------------------------------|
| 行事名 | 12 月日韓交流報告会 |
| 日時 | 平成 22 年 12 月 25 日 13:30~14:20 |
| 場所 | 茸手第二ビル 5 |
| 講師、発表者 | 発表者: 根本 英俊(本部)、大塚 直吉(北陸支部) |
| 担当者: (○印:リーダ) | ○武井 遼、根本 英俊、石井 利教、大塚 直吉(北陸支部) |
| 参加者数 | 15名(内TV会議参加者 4名) |

1. 背景・目的

平成 22 年 10 月に下関にて実施された日韓技術士会議の参加報告を行い、青年委員会の日韓交流の現状を共有する。

また、日本技術士会が導入した TV 会議システムを青年委員会でどのように活用するか、遠隔会議のテストケースとしての活用試験を兼ねる。

2. 内容

日本技術士会の TV 会議システムを用いた遠隔 TV 会議形式で、プレゼンテーションを実施した。

1. 根本氏 日韓技術士会議の概要説明、参加報告。日韓サッカー報告。
2. 大塚氏 日韓技術士会議の参加報告。
3. 全参加者による自己紹介、および TV 会議を通じた本部、北陸支部間の意見交換。

3. 成果と所感

- 日韓会議の参加報告では、第 5 分科会での根本氏、三留氏、車氏、八百屋氏、崔氏のプレゼンの紹介があった。参加者の注目を集めるプレゼンもあったとのことで、興味深い報告であった。
- 日韓親善サッカー大会での日本チーム初勝利の報告があった。普段はサッカーやフットサルに参加していない委員の間でも盛り上がりが見られ、スポーツ交流が参加者だけでなく青年委員全体に活動として認識されていることを肌で感じた。
- TV 会議システムを遠隔会議として初めて使用したが、画質や音質がよく、ストレスのない支部間交流を図ることができた。他の参加者からも好評であった。機器の設置に多少時間がかかることに注意が必要と感じた。

4. 今後の展開

- 今後も国際交流やスポーツ交流を続け、技術者間での情報交換を行う。
- TV 会議についても有効性が確認できたため、適用領域を増やす取り組みを行う。

文責 石井 利教

青年技術士交流実行委員会 活動報告

報告日:2011 年 1 月 22 日

| | |
|-------------------|---|
| 行事名 | 北関東地区 新年講演・報告と懇親の会 |
| 日時 | 平成 23 年 1 月 8 日(土) |
| 場所 | 施設見学、報告 JAEA 原子力緊急時支援・研修センター (茨城県ひたちなか市) |
| 講師、発表者 | 施設説明:渡邊氏(JAEA 原子力緊急時支援・研修センター) 講演:本田氏(茨城県技術士会 会長) 金盛氏(JAEA 原子力緊急時支援・研修センター長) 大元氏(防災支援委員会 会長) 田村氏(青年委員会 委員長) |
| 担当者: (○印:リーダー) | 主催:原子力・放射線部会 共催:青年技術交流実行委員会 防災支援委員会 茨城県技術士会 日立原子力技術士会 JAEA 技術士会 青年委員会からの参加:田村(講演)、山中(準備・記)、根本(記) |
| 参加者数 | 施設見学、講演・報告会:49名 懇親会:43名 |

1. 背景・目的

例年、北関東地区の原子力・放射線部門等の技術者の新年会として東海、大洗地区で開催されていた行事を、今回は原子力関連施設の見学や講演を加え、防災支援委員会、茨城県技術士会、日立原子力技術士会、JAEA 技術士会らと共催として、規模を拡大して実施した。今回、青年技術士交流実行委員会も共催として協力し、技術士会活動の報告と講演などで参加した。

2. 内容

2-1.施設見学会

茨城県ひたちなか市にある JAEA 原子力緊急時支援・研修センターを会場とし、林 原子力・放射線部会長のあいさつのあと施設の見学を行った。当施設は 1999 年 9 月 30 日に茨城県東海村にて発生した、JCO での臨界事故の教訓から、原子力災害発生時の対応のために設立された施設である。敷地内には茨城県の施設である原子力オフサイトセンターと国の施設である、JAEA 原子力緊急時支援センターがある。

・施設案内:渡邊氏(JAEA 原子力緊急時支援・研修センター)

1) 茨城県原子力オフサイトセンター

災害時対応の各種特殊車両の見学の後、災害発生時の対応指揮センターとなるオフサイトセンターを見学。関係自治体や警察、消防等の災害対応担当、国の原子力関係者などが一同に集まれる様に対策室が準備されており、協議会室では関係省庁とホットラインが結ばれ、TV、TEL 会議等で意思決定が出来る様になっている。原子力災害以外の通常の災害対応に適する様には出来ていないとのことであった。

2) 原子力緊急時支援・研修センター

災害情報集約・発信の拠点となる JAEA の施設。支援センターは日本にはひたちなかと敦賀の二箇所あり、東海・大洗地区だけでなく、全国の原子力災害支援に対応する施設である。通常時にも全国の放射線状況を 24 時間体制で監視している。

センター内設備、部屋(情報集約エリア、専門家室、報道モニタ室など)に関する説明があった。特に情報集約エリアでは施設設計の経緯や実際に原子力災害が発生した場合の対応について、開発したシステムを用いて詳細な説明があった。

2-2.講演・報告会

講演・報告会は 3 部構成となっており、各々講演者が決まっていたが、その他の参加者も基本的に全員が 3-5min で何らかの報告をするという形式であった。

1)第一部:原子力・放射線部会担当で技術士活動紹介

- 茨城県技術士会 本田会長による、火力・原子力発電所システム開発の経験と技術士支援に関する

る講演他、4 名の報告。

2) 第二部: 青年委員会担当で技術士活動紹介

- 青年委員会 田村委員長の、環境技術、カーボンカウンセラーの活動に関する講演ほか、永田氏他約 20 名の報告。(JAEA の若手、青年委員会 山中、根本)

3) 第三部: 防災支援委員会担当で原子力防災に関する講演 2 件。

- 本日の目玉講演である JAEA 研修センター 金盛センター長による、JCO 臨界事故対応に当たった体験報告。
- 防災支援委員会 大元委員長 都市防災支援活動の紹介。
- 時間の都合上各報告は大幅にカットし、報告出来なかった方は、この後の懇親会場への移動バス中での自己紹介となった。

2-3. 懇親会

JR 勝田駅近くの「串とんぼ 勝田店」に移動して懇親会を行った。予約人数を越えた参加者があったため、狭くはあったが、それにより多くの参加者と密に話す事が出来た。茨城県技術士会 本田会長の乾杯の挨拶に始まり、茨城県技術士会 松本理事による「お客様時代の品質保証の 1 ポイントを問う技術士活動と市民オペラ」という題目で品質保証に関する報告と氏が所属している市民オペラについて紹介があり、その最後に歌声を披露して頂いた。続いて、日立技術士会 伊藤氏からは尺八の演奏をご披露頂いた。会は大いに盛り上がり、東京等遠方からの参加者も多かったが、話は尽きず、電車の時間ギリギリまで楽しんでた。

3. 成果と所感

- 原子力・放射線部門を中心に、共催の茨城県技術士会、日立技術士会や、JAEA 若手等、様々な経験を持つ方が集い活気のある催しとなった。
- JAEA からは新人、2 年目社員を含む若手の参加があり、青年委員会の活動に興味を持ってもらう機会になった。
- 原子力防災に関する施設の見学と、原子力事故に関わった生々しい体験の講演を聞き、原子力関係に直接関わる方の緊張と苦労を垣間見、原子力安全について考える機会になった。
- 一人 3~5min の報告は、かなり目まぐるしく、最後時間切れの感はあったが、様々な経験を持つ方が集まっており聞き応えがあり興味深いものであった。

4. 今後の展開

先般、「青年委員会に対する賛同者を満足させ、増やす」という委員会の目的が確認された。この目的に沿って今回、日頃より青年委員会の活動に理解と協力を頂いている原子力・放射線部会の行事に共催として参加出来たことは意義深い。また、茨城県技術士会や日立技術士会といった日本技術士会以外の地方組織に青年委員会の存在を印象付ける良い機会となったと考える。

文責 山中淳至 根本英俊

青年技術士交流実行委員会 活動報告

報告日:2011 年 2 月 26 日

| | |
|--------|--|
| 行事名 | 平成 22 年度技術士第一次試験合格者・JABEE 修了見込者ガイダンス パネルディスカッション |
| 日時 | 2011 年 1 月 29 日(土)15:30~17:30(質疑応答含) |
| 場所 | ココヨホール(品川駅東口徒歩 2 分 http://www.kokuyo.co.jp/showroom/hall/) |
| 講師、発表者 | コーディネータ: 嶋田泰彦 (上下水道部門) パネリスト 技術士: 小柳拓央(金属部門) 技術士: 石井利教(情報工学部門) 技術士: 中村聡(建設部門) JABEE 認定課程修了生: 村松真由 (機械部門・修習技術者) |
| 担当者: | 嶋田泰彦 |
| 参加者数 | 240名程度 |

1. 背景・目的

修習委員会が主催する第一次試験合格者・JABEE 修了見込者ガイダンスにおいて、パネルディスカッションの企画運営を要請された。修習技術者として研鑽するに当たり、下記の 3 点を念頭に置いてパネルディスカッションを運営した。

- 技術士になるまでにどのような経験・研鑽(OJT、OFFJT)をしてきたのか、実例を提示する
- OFF-JT のひとつとして、技術士会の活用方法の事例紹介をする
- 技術士会の活動に積極的に参加しようという気持ちになるように運営する

2. 内容

2.1 テーマ

「技術士への挑戦」—それぞれの自分磨き—

2.2 パネリストからの提言

はじめに、「パネリストからの提言」として、パネリスト 4 名からそれぞれ発表していただいた。

- 【小柳拓央(金属部門) : 未来を切り開く技術士への挑戦】
- 【石井利教(情報工学部門) : 高等の専門的応用能力の鍛え方】
- 【中村聡(建設部門) : 技術士への挑戦】
- 【村松真由(機械部門・修習技術者) : JABEE 認定課程修了生から技術士を目指して】

2.3 ディスカッション

ディスカッションのテーマとして、次の 4 つを設定し、それぞれのテーマについて 2~4 個の質問をパネリストに行い、回答していただく形式で進行した。最後に会場からの質問を受けた。

- 1) 二次試験の動機と受験へのモチベーションの獲得・維持
- 2) 自分磨きの方法と日本技術士会との関わり
- 3) 技術士になってからの自分／先輩技術士を見ていて思うこと
- 4) どのような技術士を目指したいか

3. 成果と所感

パネルディスカッションは、合格者歓迎会のプログラムの中でも関心が高く、参加者には集中して聞いていただくことができた。技術士の方と接することや、仲間を見つけて行動していくことなどをパネリストからお話いただくことができ、ある程度は参加者にも伝わったのではないかと考える。

4. 今後の展開

修習委員会とは一緒に行事を実施することが少なくなりつつあるが、協働できる場面では協働していくことが重要と考えている。青年委員会だけを前面に押し出したわけではないが、技術士会の活動に興味をもってもらう一助として、来年以降も企画に協力できるとよいと考える。

青年技術士交流実行委員会 活動報告

報告日:2011 年 4 月 25 日

| | |
|-------------------|--|
| 行事名 | 4 月特別例会(一次・二次試験合格者歓迎会 & 青年技術士展 2011) |
| 日時 | 2011 年 4 月 23 日 |
| 場所 | 荳手第二ビル日本技術士会会議室A, B, C, D |
| 講師、発表者 | ○青年委員会紹介… 嵐田委員(副委員長)、石井委員、三留委員、横井委員、武井委員 ○部会紹介…各部会部長推薦者および青年委員会委員メンバー 衛生工学:横田委員、化学:榎本氏、環境:尾上氏、機械:内藤氏、水谷氏、 金属:山本氏、経営工学:鈴木委員、建設:野村氏、原子力・放射線:阿部氏、 水産:久下氏、農業:古西氏、情報工学:石井委員、上下水道:嵐田委員、 生物工学:三留委員、電気電子:横井委員、 |
| 担当者: (○印:リーダー) | ○山地(記) 当日参加委員(15 名)全員担当あり |
| 参加者数 | 第一部:ディスカッション他 合計71名(一般42名、部会14名、委員15名) 第二部:懇親会 合計63名(一般37名、部会11名、委員15名) |

1. 背景・目的

①昨年や一昨年に引き続き、自分の所属部門にとらわれない出会いと、先輩技術士から JABEE 出身の若い技術者までの世代を超えた交流を実施する事を目的として、青年技術士展として全員参加型イベントの開催を行った。

②一次・二次試験合格者に日本技術士会の活動に対してより多くの理解を得てもらふ事を目的として、各部門および青年委員会自身の活動のPRを実施した。

2. 例会内容

第一部:青年技術士展

1. 開会の挨拶、青年委員会活動紹介(13:30~13:50)

- 開会の挨拶、青年委員会活動紹介(全体) 嵐田副委員長
- 青年委員会活動紹介(活動別) 石井委員(広報・IT)、横井委員(例会)、武井委員(支部交流)、三留委員(国際交流)
- 青年委員会の概要を知ってもらうことを目的とし、活動概要をはじめ支部交流、例会、国際交流、広報・IT及び本年度の全国大会等の活動紹介を順次行った。

2. 部会活動紹介(13:50~15:45) 各部会部長推薦派遣者および青年委員

- 各部会活動概要紹介プレゼン(方式自由、持ち時間 5~10 分)
- 続いて各部門の部会活動の概要を知ってもらうことを目的として、各部会からの派遣者の手による活動紹介を順次行った。参加部会数は 14(上記参照)であった。

3. ディスカッション(16:00~17:30) 全員参加

- 東日本大震災をテーマとした全員ディスカッション
- テーマ 『『技術士になった』自分に何が出来、またどうして行くか』について社会に対し明確な発信を行う。
- 「建設」、「ものづくり」、「情報・インフラ」、「原子力」を立ち位置とした 6~8 名の 7 グループにて実施。
- グループ分けは当日受付時にとった希望をベースに振分け。
- より良い議論の展開を狙い、ディスカッション途中の中間報告発表を行い、他のグループの考え方や成果に触れるようにする。
- ディスカッション結果については終了後の発表は行わずに成果を一同に展示し、意見交換等を行う時間を設ける(17:30~18:00)。ディスカッション内容のレポートは青年委員会HPに公開する。

第二部:懇親会(18:10~20:15)**総評・閉会の挨拶****田村委員長****3. 所感**

今回は前二回の内容とは異なる新たな試みでもあったが、自らが考え発信することがメインテーマであったこともあり、参加者の非常に活発で積極的なアクションが見て取れた。メインとなるディスカッションでは白熱しながらも発散せず、成果をまとめ上げることを意識した結果、当初行わない予定であった成果発表が自発的に行われるまで発展を見せたことは当初予想していた以上の成果だと思われる。参加者の熱気と意識の高さに自分自身も大変刺激を受けた。開催に当たり、日本技術士会本部事務局並びに各部会の皆様には多大なるご支援、ご協力を賜り、あらためて深く感謝致す次第である。

青年技術士交流実行委員会活動報告

報告日:2011年6月18日

| | |
|-------------------|---|
| 行事名 | 5月例会:『東京里海エイド』テクノツーリズム企画案の検討 |
| 日時 | 2011年5月28日(土)10:00~13:00 |
| 場所 | 葛手第二ビル5階A,B会議室 |
| 講師、発表者 | 講師:橋爪慶介氏【DEXTE-K 代表、技術士(総合技術監理部門/建設部門)】 |
| 担当者: (○印:リーダー) | ○春日桂一郎、鈴木史人(記) |
| 参加者数 | 18名(内スタッフ6名) |

1. 背景・目的

11年度では、環境を軸とした全国大会が行われ、青年委員会でも環境をテーマとした例会を検討してきた。一方、10年11月例会に開催した例会コンペで評価の高かった「東京里海エイド」を題材とし、例会を行うことになった。

「東京里海エイド」環境活動の講演を聞き、グループワークで参加者に新たなイベント企画の体験をしてもらおう。また、「東京里海エイド」の活動に技術士の専門性を活かし、技術士青年層のプロボノ活動への機会提供が目的である。

2. 例会内容**2.1. 「東京里海エイド」講演**

葛西臨海公園周辺海域の自然回復状況がされている一方で、江戸川と荒川からの漂流ゴミが流れている。橋爪氏が実施してきた清掃活動が、地元NPOや行政団体から関心を呼び、「西なぎさ発:東京里海エイド」の活動が09年より1回/月実施されることになった。「東京里海エイド」の活動を通じた、漂流ゴミの環境影響やトレーサビリティの調査を進め、その対策が課題となっており、技術士のネットワークを通じたプロボノ活動が期待される。

2.2. グループワーク

4グループに分かれ、「東京里海エイド」を支援するための体験活動(テクノツーリズム)の企画を行う。グループは、技術部門が異なるメンバーとなるように構成した。グループワーク時間:50分、グループ発表と質疑応答を各10分とし、各人が2グループを投票し優れた企画を今後の例会に繋げていくことにする。

結果は以下の通り、詳細は次ページ写真を参照。

- ①A グループ「子供を対象とした環境教育/水の浄化の実験」(得票11)
- ②B グループ「プロボノの体験活動」(得票4)
- ③C グループ「ゴミの出所を探れ! 拾う人を増やす活動」(得票7)
- ④D グループ「ごみはどこから来てるかな?」(得票6)

となった。

2.3. 懇親会

講師と、懇親会参加希望者と交流を深め、今後の技術士活動へのきっかけとなる場の提供を行った。NPOの中で活動をしている参加者もあり、情報交換が行うことができた。

3. 成果と所感

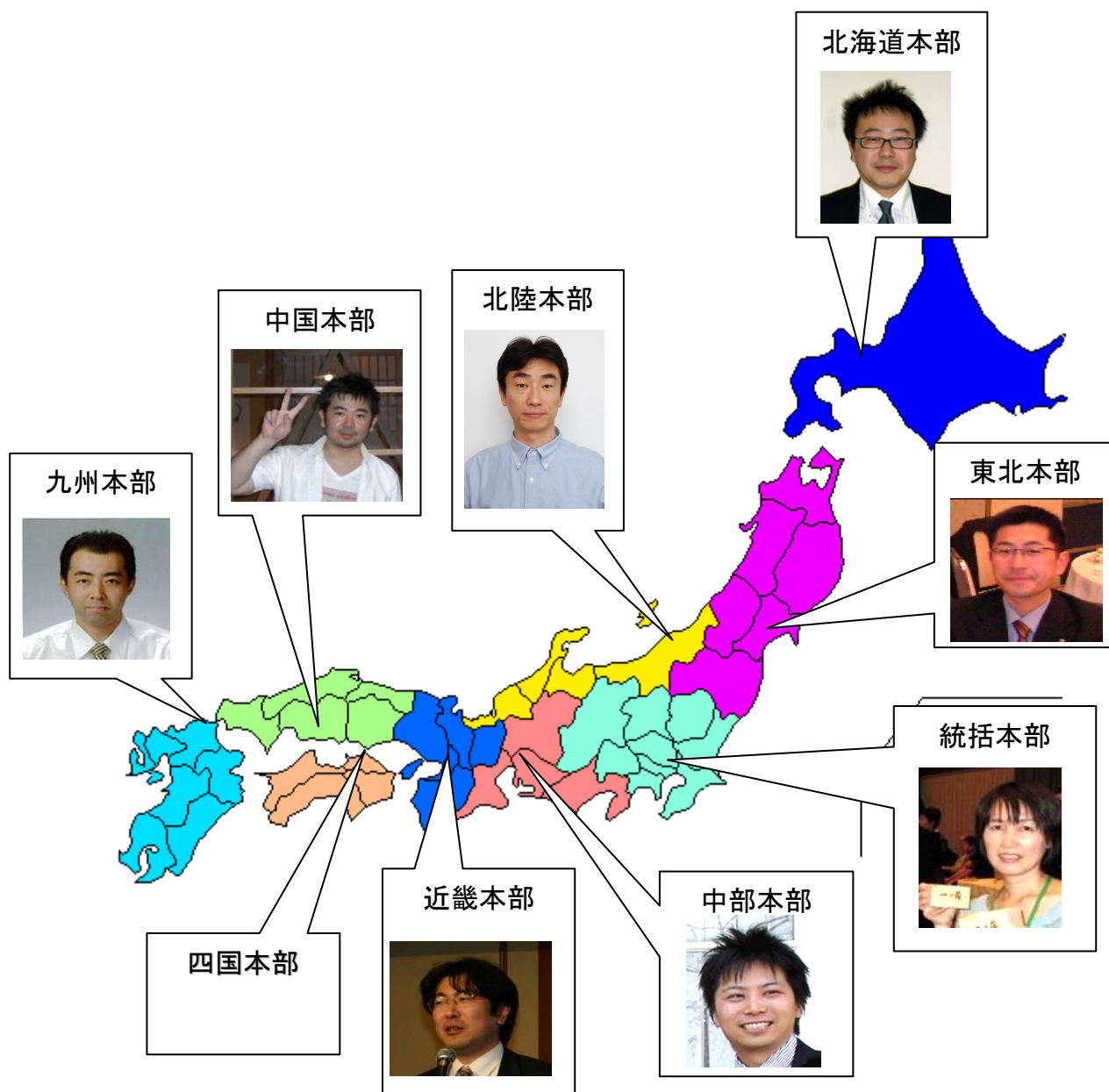
グループワークの時間が50分と短く、技術士が行う活動の企画としては、深掘したものにはならなかった。今後は考える時間を設けるよう企画していきたい。

4. 今後の展開

今回の例会の成果を元に、得票の高かったテーマについてスタッフでディスカッションを行い、「東京里海エイド」と共同活動するチームの立ち上げの支援を検討していく。

以上

支部交流 G 活動報告



※2011 年 7 月より、日本技術士会の公益法人化に伴う機構改革により、従来の各「支部」は各「地域本部」となり、「本部」は「総括本部」となりました。本冊子においては、2010 年度の活動報告として「支部」の表記を原則として用いていますが、作成時期の都合上、かならずしも統一されておりませんことをご理解ください。

支部交流グループ活動報告

支部交流グループリーダー 武井 遼

1. メンバー

武井、仁田、横井、根本、宮本、渡邊(弘毅)

2. 今期の活動

① 合同テクノツーリズム実施:

支部を始めとした、他の技術士会関係団体との共催行事を企画実施しました。

② 支部との TV 会議実施:

支部との定期的な情報交流の取り組みとして、支部とのテレビ会議を例会企画として実施しました。

③ 情報の配信:

支部会員への情報発信ツールの一つである、青年ニューズレターの配信を従来通り継続するとともに、支部から頂いた情報についても配信を行いました。また、配信先を各部会の代表に拡大して引き続き行っています。

3. 成果

① 合同テクノツーリズム実施:

北陸支部との合同テクノツーリズム「地質を調査すること(過去から現在を知り、未来を予測する)」および「学習の場の重要性を知る(学舎の原点に帰り先駆者の知恵に習う)」を企画実施しました。

北関東地区での「新年講演・報告と懇親の会」では、例年北関東地区の原子力・放射線部門などの技術者の新年会として開催されていた行事を、原子力関連施設の見学や講演を加えて、関係団体との共催として実施しました。青年技術士交流実行委員会も共催すると共に、技術士活動の報告と講演を田村委員長が行いました。

② 支部との TV 会議実施:

10 月に下関で実施された日韓技術士会議の参加報告を、TV 会議システムを活用し、北陸支部と合同で例会を実施しました。(詳しくは例会活動Gで報告)

③ 情報の配信:

青年ニューズレターは 6 回配信を行いました。さらに東日本大震災以降は、青年技術士交流実行委員会有志で技術者からの災害支援ブログを開設し、3 月 21 日より技術者の立場から役に立つ情報を発信してきました。

本支部交流会議を開催するとともに、青年技術士交流会誌を作成および配布しました。四日市市で開催された技術士全国大会において青年技術士本支部懇親会を実施しました。

4. 今後の展開

① 全国大会や合同例会などの機会を通じて、地域本部との交流を深めると共に、地域本部間の情報共有が行える仕組みづくりに取り組みます。

② 来年度開催の技術士全国大会(大阪)における青年の集いの開催支援を行うと共に、新たに発足の準備に取り組んでいる四国本部青年委員会の立ち上げに協力を行い、近畿・四国両本部における青年技術者との架け橋となる交流活動に取り組んで参ります。

報告日:2010 年 7 月 20 日

| | |
|------|------------------------------|
| 行事名 | 本支部交流会議 |
| 日時 | 平成 22 年 6 月 26 日 13:30~20:00 |
| 場所 | 日本技術士会 葺手第 2 ビル A,B 会議室 |
| 担当者: | |
| 参加者数 | **名 |

1. 各支部活動報告

活動年鑑 2009 の記載内容に基づき、各支部委員から活動報告がされた。(下記には一部を記載させていただきますので、詳細は活動年鑑 2009 を参照されたい。)

1. 北海道支部(樋詰)
テクニカルスクールや大学・高専への支援事業などを実施した。次世代教育活動の継続、技術士の地位向上・社会認識の向上が課題。
2. 東北支部(開米)
全国大会準備、分科会や青年交流会の運営を担った。宮城県建築士会との連携を実施、学習することも多くあった。高齢のメンバーに代わり青年層が主体となった交流が必要。
3. 北陸支部(大塚)
支部4県交流会(新潟、富山、福井、石川)や、サッカー交流会を実施。試験運用したSNSでは、トピックについて連続して議論できるという、メーリングリストとは違うメリットを認識した。
4. 中部支部(高瀬)
活動報告に加え、本年度全国大会についてのスケジュールの説明をされた。青年技術士の集いについては、パネリストの募集を掛ける。事前参加確認書の送付に協力をお願いしたい。
5. 中国支部(高木)
轄地区の道路整備についてなど、多くの例会や勉強会を実施。本年度日韓会議についての説明をされた。山口県下関市で実施、サッカーは九州にて実施。多くの参加をお願いしたい。
6. 九州支部(持田)
小学生対象の自由研究支援や月例会などの活動を実施。20代の参加者の獲得が課題。九州支部にて“事業仕分け”が実施されるが、青年層の積極的な交流が可能になるように考えている。

2. TV 会議システム導入に関する報告(石井)

2010 年 7 月に、TV 会議システムを導入予定。東京と大阪に拠点となる機器を設置される方針であるが、使用方法の仕組みなどは今後整備されるとのこと。

3. グループ討論

「技術士の知名度の向上」というテーマで、3 グループに分かれてグループ討論を実施した。各グループの討論内容は下記のとおり。

1. Aグループ(議事:末廣)

グループAにおいては、ターゲット毎に技術士の知名度向上の方法を検討した。その結果を以下に示す。

(ア) 若者

大学(JABEE等)、中高小学生への教育支援の拡大。

(イ) 一般

- ・ マスコミを通じて広報する。(BSでチャンネルを創設)
- ・ 技術士についての書籍を出版する。
- ・ 会社等で講演活動を行う。
- ・ キッザニアに技術士コーナーを出展する。

(ウ) 非会員

- ・ 技術士会規約を改定する。(会員でないと技術士を名乗れないようにする。)

(エ) 会員

- ・ 業務占有できる部門を増やす。

また、(ウ)、(エ)に対する共通の方法として、技術士会の会員サービスの向上が挙げられた。具体的な方法は以下の通り。

- ・ 専門家斡旋サービスを創設(もしくは拡大?)する。
- ・ 地方組織を一元化する。(会費の二重支払いの廃止等)

以上を踏まえ、短期的なアクションプランとして、以下の2点を提案した。

1) 大学(JABEE等)、中高小学生への教育支援の拡大。

期日:来年の拡大委員会まで

対象:教育支援を実施していない本支部

方法:教育支援の実施経験のある本支部から情報を収集し、実施する。

2) 技術士についての書籍を出版する。

期日:今年の全国大会まで

対象:全本支部

方法:各本支部で技術士になることのメリット等の情報を収集する。

2. Bグループ(議事:平原)

1) 立場の異なる個々人から見た技術士の知名度

- ・ 学術領域において技術士はそれほど知られていない(三留)
- ・ 官公庁にはよく知られている(鈴木)
- ・ ゴミ、プラント関係の会社では推奨されるが、職歴によって必要であるか否かが異なる
- ・ 他社で信用される可能性が高く、会社を挙げて推奨すれば知名度も向上する(久保)
- ・ 上下水道では必要だと思うが、部門によって必要度が全く異なる(畠田)
- ・ 知名度の本質を考える必要がある(高瀬)
- ・ 仕事をとってくる上で技術士は必要(久保)
- ・ 学生の立場から見ると技術士の知名度は低く、周りに取得している人物がいない(平原)

2) 議論の視点

- ・ 技術士の社内での評価、知名度を向上させたい
- ・ 学生や JABEE のような制度で技術士の知名度を向上させたい

この二点を言い換えると以下の三点の議題となった。

- (ア) 技術士の知名度をなぜ向上させる必要があるのか？
- (イ) 取得している人の技術士の知名度をどうやって向上させるか？
- (ウ) 取得していない人に技術士をいかに取得させるか？

そもそも技術士の定義とは何か？

- ・ 技術士とは専門技術やその周辺技術を分かりやすく説明することができ、その技術を国によって認められた者

これを踏まえた上で①について議論がなされた。

- ・ 高度な技術を生み出してくれるのが技術士であるから技術士が必要であり、その知名度を向上させる必要がある
- ・ 国家が技術士を技術の最高資格であると謳っていることから、その技術士の知名度が低いと技術が低いと認識されてしまうことから知名度を向上させる必要がある
- ・ 技術力の担保として技術士名称が必要であるから向上させる必要がある

以上の①の議論が展開された上で②、③について以下の具体的なアクションプランが提案された。

- ・ 名刺に技術士(部門まで)と入れるように推奨する
- ・ 国家資格であることをさらにアピールする
- ・ 社内で広報する
- ・ 社内で技術士を説明するためのテンプレートを作製する
- ・ 技術士試験の受験を推奨する
- ・ 母校を訪問して広報の営業活動をする
- ・ 技術士試験受験者の動機を分析する
- ・ 技術士というものを平易に説明する機会を提供する

以上に挙げられたアクションプランは国ができることと我々が青年委員会としてできることに分けることができるが、二番目の項目以外は我々が青年委員会としてできることであると考えられる。したがって、技術士の知名度を向上させる一助として我々が青年委員会ではできることは幅広く、広報活動として重要な役割を担えるはずであると考えられる。

3. Cグループ(議事:松永)

1) アピールする

- ・ 学生への働きかけ(丸一日、学校への教育)、理工系離れ
- ・ JABEE、APEC
- ・ 将来なりたい職業で、「技術士」と答える子供が独りもいない

2) 門戸を工夫する

- ・ JABEE をとつても技術士を目指さない人がいる

3) 技術士会への入会メリットをつくる

- ・ 独立した技術士には、人脈作りとしての有効価値が高い
- ・ 名刺交換をした際、相手が技術士と知ると仲間意識が沸く

- ・ 有資格者の登録率は2割
- ・ 各県技術士会が独立にあり、そちらの方が会費が安い
- ・ 業務斡旋は、他学会の方にメリットがある
技術士会が質の良い技術者を、斡旋業務に対して提供できない
(土木学会などでは、担当者の質に関して会社が責任を負う)
- ・ 医師会、弁護士会:全員入会。組織として外部に声出しできる

4) 技術士会への入会率を上げるには

- ・ 修習技術者の無料参加
- ・ 月刊 PE の雑誌を面白くする
- ・ JABEE への説明会を工夫する
- ・ 有資格者に名簿登録を必ずさせる etc

4. 全体ディスカッション

③のグループ討論を基にして、全体でディスカッションを実施した。

- ・ 全国大会の交流会にて、各支部でのアクションプランを提言するのはどうか。(高瀬)
- ・ 技術士会活動を通して得られたメリットについて、数人を選抜してロールモデルを紹介するのはどうか。(松本)
- ・ 修習技術者のハンドブックよりも、具体的にしたほうがアピールに繋がるのではないか。(鳶田)
- ・ 月刊 PE についての改善を求めたい。(開米)
- ・ 月刊 PE への連載から、書籍へ編集するのはどうか。(武井)
- ・ 修習委員会の広報活動に便乗する方法はどうか。(松本)
- ・ 来年の全国大会でのポスターセッション枠でアピールするのはどうか。(田村)

5. 総括(武井)

支部間交流が大変有意義であり、支部ごとの活動の内容や状況を把握することができた。今後もこのような機会を継続していきたいと感じた。

6. 懇親会

同会場にて懇親会を実施、新任委員からの挨拶も実施された。会には委員会 OB の参加もあった。

青年技術士交流実行委員会 活動報告

| | |
|------|-----------------------------------|
| 行事名 | 天王洲アイランド開発地域周辺 東品川海上公園内ポンプ場屋上庭園見学 |
| 日時 | 平成 22 年 6 月 27 日 (日) 10:00-14:00 |
| 場所 | 天王洲アイランド |
| 担当者: | ○北條 根本 松本 渡邊(弘) 宮本 渡邊(春) 平原 松永 |
| 参加者数 | 15 名 |

1. 背景・目的

6 月拡大運営委員会参加のため支部会員が集合した事を契機に、本部・支部の相互交流を深める事・技術的知見を深める事を目的とし、テクノツーリズムを実施した。

2. 例会内容**(1) 天王洲アイランド開発地域周辺**

天王洲アイランド周辺の都市化開発地区は、高層のオフィスビルやレジデンシャルと共に、緑豊かな運動公園や水辺をそぞろ歩きできる歩道などが整備されており、人工的ながらもコンクリート建築と緑の調和が保たれている。日曜だったせいか、ビジネス関係者や商業車両も少なく、かといってレジャー客でのごった返す事もなく、大変のんびりした風情で、皆普段の忙しさからひと時解放され、景色を満喫していた。

(2) 東品川海上公園内ポンプ場屋上庭園見学

屋上庭園は東品川海上公園内に立地している。公園施設内のポンプ設備の上部に庭園を設置する事で、周囲の景観との調和が図られていた。庭園施設内は、利用者だけでなく維持管理作業従事者に対してもバリアフリーな構造となっており、多様な個性を持つ人々を広く受け入れるための配慮がなされていた。参加者一同、庭園の美しさを愉しむと共に、人に優しい庭園構造の見学を通じ、知見を深める事ができた。

庭園見学の後、昼食の予定であったが日曜だったためフードコートは閉店が多く、食事を取るかを各自に任せ、リバーサイドのオープンカフェで合流、黒ビールを堪能した。1 時間程度談笑した後、リバーサイドで解散した。

3. 成果と所感

天候にはあまり恵まれなかったが、さほど強い雨も降らず、無事予定箇所を訪問する事ができた。喧騒や混雑がなく、終始メンバーとコミュニケーションを取りながら見学する事ができ、普段交流する機会の少ない支部と本部の会員間にあって、より親密な関係を構築できたと思う。

4. 今後の展開

今回は拡大運営委員会参加のため、支部委員が本部を訪れる形での交流となった。今後は全国大会なども予定されている事から、本部会員が支部を訪れ、今回参加できなかった方々との交流を通じ、本支部間のさらなる結束の強化を図っていく。

北海道支部の紹介



代表者氏名: 田中 真也
部 門: 農業/総監部門

■ あいさつ

皆様、こんばんは。今期から北海道の青年技術士交流委員長を仰せつかりました田中です。歴代の素晴らしい委員長の後任と言うことで責任の重さに身が引き締まる思いですが、精一杯努めさせていただきますのでよろしくお願いします。

また、東北の皆様は大変な状況の中、震災復興に従事されているとのこと。心よりお見舞いを申し上げますとともに、一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

私が平成 17 年に北海道の青年技術士交流委員会に参加してから早 7 年目になります。この間、東京(H18)、福井(H19)、松江(H20)、仙台(H21)、三重(H22)と 5 回の全国大会に参加させていただき、同年代の技術士が全国規模で交流することの意義を痛感しております。

北海道では技術士の多くが建コンかゼネコンに所属しており、技術の換金は税金を媒介する発想が基本となっています。しかし、全国大会には多様な業態の技術士が集まっているため、固定化する発想を打破する良いきっかけとなっております。

また、北海道にいとあまり意識することのない国際交流や国際競争など、皆様が携わっている仕事のスケールの大きさに触れ、自らの資質向上に向けたモチベーション向上になっています。

そして何よりも、技術士が技術をもって社会へ奉仕し、社会から価値を認められるためには、全国規模での連携が不可欠と感じます。逆に、社会に認知され評価されることで、社会に貢献しうる場面も増加すると考えています。今後も北海道が果たしうる役割を積極的に担い、全国大会を契機とした交流・連携の強化に貢献していく所存です。

当会では技術士会の公益社団法人移行を踏まえ、我々の仕事とは何か、また顧客とは何か、を再定義する作業に着手しています。この議論の中で「顧客＝我々自身及び青年技術士」、「仕事＝交流をツールとした資質・モチベーション向上、各自の技術力向上を通じた社会貢献」などを確認し、自然体で持続可能、かつ目的がぶれない活動に向けて個別企画を検討しているところです。

公益社団法人化により自らの組織に課した高いハードル(＝不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与)と現実的なキャパシティの限界とのバランスをどのようにとっているのか、このあたりも今回の全国大会で皆さんにご意見を伺いたいと考えております。

以上、徒然となりましたが、アツい東京で皆様とアツくクロスすることを楽しみにしておりますので、よろしくお願い申し上げます。

■ メンバー紹介

公益社団法人日本技術士会北海道本部青年技術士交流委員会(以下、青技交)は、本部に2つある実行委員会の1つに位置づけられております。青技交幹事の任期は1期2年となっており、今年は第12期の1年目で、この5月より新委員長の下、新体制が発足しました。現在、北海道青年技術士交流委員会は、委員長の他、副委員長4名、幹事長1名、幹事24名で構成されています。

最近の課題としては「幹事の高齢化」に頭を悩ませているところですが、“青年技術士”として合計30名の幹事で、引き続き精力的に活動を展開し、また新たな次世代への継承・幹事の勧誘にも取り組んでいるところです。



【田中新委員長による新幹事紹介】
(H23.5.25 総会にて)

■ 平成22年度活動報告と反省

現在、青技交は①「北海道の技術」、②「テクニカルスクール」、③「学校へ行こう」の3本柱を中心に活動しています。

①は北海道の技術をテーマとした「講演会」形式を基本としており、社会貢献及び技術士活動PRの観点から、一般市民の参加も可能としたうえで、大学等、公共の場所への案内を実施しております。平成22年度は「組織と部下を活かすコーチング」をテーマに取り上げた講演を開催したほか、独立行政法人 土木研究所 寒地土木研究所 道央支所との共催で「空知地域の発展と生活を支える土木技術」をテーマにしたシンポジウムを共催しました。

②の「テクニカルスクール」は会員、特に40歳前後の中堅技術者が共通して抱える課題に対応したテーマを取り上げ、連続したスクール形式で学習し、スキル向上を図る、という主旨になっています。平成21年度のテーマ「コーチング」に続き、平成22年度は「マネジメント」をテーマにした「ドロッカーに学ぶセルフマネジメント」と、“円高スペシャル—技術士よ世界を目指せ!”とのサブタイトルで「技術士から見た世界の都市事情」の、2回にわたりスクールを開催しました。

③の「学校へ行こう」は、昨今の子供たちの理科離れや、技術系教育機関の卒業者が無関係の分野に就職していく現状を改善するために、技術系教育機関で技術系業務の楽しさや魅力を伝えることを目的としたもので、平成22年度が試行3年目となります。平成22年度は、北海学園大学工学部の学生を対象に、授業のコマを頂いて、技術士2名が日常の業務の内容や面白み、技術士取得の意義等について講義を行いました。また、旭川工業高等専門学校においても、学生及び先生方を対象に、技術士2名による講義を行いました。



【「学校へ行こう」での講演の様子】
(建設部門:東本技術士)

このほか、公益社団法人日本技術士会北海道本部の会員、技術士補を含む準会員、北海道本部会友全員を対象としたメーリングリスト EPO (engineer park online: 通称エポ) の運営も平成10年から継続して担当しています。

■ 平成 23 年度活動計画と抱負

平成 23 年度も引き続き 3 本柱を主軸に据えた上で、様々な課題に臨機応変に対応する方針で活動していく計画となっています。

既に、①「北海道の技術」は、少し対象を一般向けに拡大し、「コミュニケーション」技術に関する企画として、株式会社コロプラ 代表取締役 GM 馬場功淳氏を招き、「モバイルコンテンツビジネスと地域活性化」と題した講演会を開催しました。



【講演される馬場氏】

このほか、②「テクニカルスクール」は「マネジメント」に関する連続した連続企画で内容を協議しており、③「学校に行こう」は北海道内の複数の大学・高専からリクエストを頂き、内容や日程の調整を進めているところです。

このように、なかなか盛り沢山の活動となっているため、ともすると「こなす」ことで精一杯の状況になりがちですが、対外的な連続性は担保しつつ、新たなステップに向けて様々な取り組みを行っていかうと考えています。

また、ここ数年は「コーチング」や「マネジメント」、「コミュニケーション」といったテーマで講演会やテクニカルスクール等の活動を行っており、一連の“流れ”のようなものも出てきました。今後、これらの北海道本部青年技術士交流委員会としての活動結果を、何らかの成果にできれば、と考えています。

■ キーワードは、「宴」

突然ですが「宴」とは、「たのしむ、落ち着いた気持ちでたのしむ」という意味があるそうです(田中委員長ブログより引用)。

北海道支部では、定期的に幹事会を開催しています。

その幹事会は、暗黙のルール？ 仕事が速い？ 道民の特徴である飽きっぽい？ などの理由でおおむね 2 時間以内の開催となります。

そのあとのお楽しみといえ(どちらかというと本題は)、やはり「宴」です。幹事会は、仕事を抜け出たの“解放感”や“すすきの”という場所柄なのか、(次の日に仕事だというのに)幹事会以上に(いや同等に)盛り上がります。

「宴」の議題は、政治、経済、金融など・・・の話はもちろんありません。年齢的にも会社でのポジションも近いので、かっこよくいうとマネジメント、コーチングの話で盛り上がります。

さらに先日の幹事会では、「新たなビジネス」が生まれ、成果を上げることに成功いたしました。場所はもちろん、いつもの「居酒屋 古典家」での出来事です。

実は先日、田中委員長にお子様が生誕されました。そこで(酔った勢いで?)命名権をいただきました。それはもう“ひとごと”ですから、アイデアが出るは出るはで・・・。

そこは田中委員長の良い人柄がそうさせるのでしょう。

ということで勝手ながら「宴太郎」と決定させていただきました。

以下田中委員長のブログより引用

- ・「宴」(動)「たのしむ。落ち着いた気持ちでたのしむ」。

→ハプニングがあっても、どんな困難があっても、ピンチをチャンスと捉え、前向きに落ち着いた気持ちで人生を楽しんでほしい。

- ・「太」(形)「ゆたかであるさま」。

→体はもちろん、心をたくゆたかに育て、実りのある人生を送ってほしい。

- ・「朗」(形)「明るくて快活である」。

→どんなことがあっても気持ちは負けず、いつも朗らかに過ごしてほしい。

ということで、宴太朗(えんたろう)という名を授けた

ここまで好き勝手書かせていただきましたが、改めてこの場をお借りして

「おめでとうございます！！」。

それでは最後まで委員長ネタですが、イクメン田中委員長のお弁当シリーズをご覧ください。

「宴」は、北海道支部の佐光(さこう)がお伝えいたしました。



写真-委員長の手作りお弁当と恒例のコーヒー焼酎(居酒屋 古典家 HP より)

東北支部の紹介 (がんばろう東北)

代表者氏名：開米 浩久
部 門：建設部門、農業部門



■ あいさつ

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震で被害に遭われました皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、全国の皆様より、被災者及び被災地復興に向けた支援を頂戴していることに感謝の意を表します。

地震名称:平成 23 年東北地方太平洋沖地震(震災名称:東日本大地震)

発生時刻:平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分

震 源:三陸沖(牡鹿半島の東南東 130km)、震源の深さ 10km

地震規模:モーメントマグニチュード 9.0(最大震度 7)

被害概要(平成 23 年 6 月 18 日現在)

死者 15,451 人、行方不明 7,692 人、避難者 124,594 人、被害額 25 兆円(政府試算)



写真 1:高架鉄道の落橋



写真 2:壊滅した臨港道路



写真 3:地すべりによる住宅倒壊



写真 4:山間地での捜索活動

■ メンバー紹介

東北支部 青年技術士懇談会は、代表幹事 1 名、副代表幹事 2 名、幹事 13 名の計 16 名で活動しています。

| NO | 役職 | 氏名 | 部門 | 勤務先 |
|----|-------|--------|-------|------------------|
| 1 | 代表幹事 | 開米 浩久 | 建設、農業 | (株)復建技術コンサルタント |
| 2 | 副代表幹事 | 久保 善央 | 上下水道 | 積水化学工業(株) |
| 3 | 〃 | 飯島 正顕 | 建設 | (株)建設技術研究所 |
| 4 | 幹事 | 桂 利治 | 総合、建設 | 桂技術事務所 |
| 5 | 〃 | 前田 知彦 | 総合、建設 | (株)復建技術コンサルタント |
| 6 | 〃 | 一柳 哲也 | 建設 | (株)間組 |
| 7 | 〃 | 小島 淳 | 建設、環境 | 日本工営(株) |
| 8 | 〃 | 堀内 深 | 建設 | 八千代エンジニアリング(株) |
| 9 | 〃 | 辻 孝広 | 建設 | 飛島建設(株) |
| 10 | 〃 | 佐藤 勝幸 | 建設 | パシフィックコンサルタンツ(株) |
| 11 | 〃 | 渡邊 弘毅 | 総合、建設 | いであ(株) |
| 12 | 〃 | 南 敏文 | 建設 | 鹿島建設(株) |
| 13 | 〃 | 五十嵐 栄吉 | 電気電子 | ユアテック(株) |
| 14 | 〃 | 水出 佳奈 | 建設 | (株)福山コンサルタント |
| 15 | 〃 | 飯島 正人 | 建設 | 佐藤工業(株) |
| 16 | 〃 | 木村 幸由 | 生物工学 | 宮城県塩釜保健所 |

■ 平成 22 年度活動報告と反省

平成 22 年度は、定例の総会、研修会、全国大会派遣に止まり、マンネリの活動から脱却できませんでした。『平成 23 年度こそ・・・』と思った矢先の巨大地震発生。

■ 平成 23 年度活動計画と抱負

平成 23 年度は、メンバー全員が震災復興に全力で取り組みことを確認。

メンバーの業務及び個人活動を優先することとし、青年技術士懇談会行事は休止、本部及び各支部行事への参加も最小限に止める予定であります。

■ 被災地からの発信

仙台市に住む者として、東日本大震災の経験を全国に発信します。

① 地震発生(平成 23 年 3 月 11 日 14:46)

平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分 緊急地震速報が流れる。その数秒後、震度 7 の巨大地震が発生、大きな揺れは 3 分以上続き、揺れの途中で全域が停電、震度 6～4 の余震が数分間隔で襲ってくる。

② 帰路(平成 23 年 3 月 11 日夕刻)

幹線道路は大渋滞、歩道は徒歩で帰宅するサラリーマン、学生で溢れ、身動きが取れない状態。歩道には割れた窓ガラスが散乱、外壁が崩れバス停を押し潰している。

道路渋滞の原因は、地震でゆがんだ舗装、液状化による泥水の噴出。鉄道、バス等の公共交通機関は、地震発生直後に運休を決定。

停電に加え、携帯電話の充電も乏しくなり、地震に関する情報が一切入手できない。夕暮れになると、市街地は渋滞の車のライトのみが光り、住宅街は暗黒の世界。仙台港の方向に火柱が見え、大火災が発生したことが把握できる。

『今、仙台で何が起きているのか？ 仙台以外はどうなったのか？』

③ 被災情報(平成 23 年 3 月 11 日～3 月 12 日)

電気、ガス、水道等のライフラインが全て停止。情報は、携帯ラジオ、もしくはカーナビで入手するが、当分、電池、ガソリンの確保は困難と誰もが思う。

ラジオからの情報

『大津波警報発令、高いところで 6m が予想』

『岩手、宮城、福島に 15m の大津波が到達』

『仙台市荒浜で数百人の遺体を確認、行方不明者は数千人』

『南三陸町、女川町は壊滅状態、行方不明者は数千人』

停電でテレビ映像を入手できないため、とにかく夜が明けるのを待つ。

④ 被災状況(平成 23 年 3 月 12 日)

カーナビでニュースを見る。被災者数が数百人単位で増え続ける。

津波が到達した沿岸地域は壊滅。地盤沈下による水没で被災地に行くことすらできない。

親類の安否を確認したいが電話は不通状態が続く。

⑤ 物資、生活(平成 23 年 3 月 12 日～3 月 31 日)

電気、ガス、水道の無い生活は想像を絶する。食料品店は開店していないのに長蛇の列。ガソリンスタンドに並ぶ車が道路を塞ぎ、渋滞は一層深刻になる。ガソリン待ちの先頭では、客と警官が押し問答『今日は開店しないので帰れ』、『明日、明後日まででも並ぶ』。

コンビニは、酒、タバコ、文具のみ、食料は無い。会社での炊き出し、配給に感謝。

鉄道被害が深刻な上にガソリン不足、仙台市民の多くが自転車通勤(昔の中国みたい)。

石巻市を通る三陸自動車道(自動車専用道路)で、歩行者、自転車を目撃。一般道が水没しているため、盛土法面を登って進入しようだ。

とにかく、野次馬が多く、何処もかしこも大渋滞。『素人カメラマンは来るな』。

⑥ 福島第一原発事故

ノーマークだった福島第一原発で水素爆発が発生。遺体捜索を中止し避難。

被災者は『東京電力、何やってんだ。社員全員保証金持って福島に來い』と叫ぶ。

⑦ 被災者の声(インタビュー)

【宮城県石巻市 雄勝港周辺にて】

津波の高さは海面から30mはあったと思う。第1波は3時25分頃、第2波は1波が収まりきらないうちに到達、第3波は第2波の10分後に来襲。第1波、第2波では家も残っていたが、第3波で家も全てやられた。高台に避難し津波を見ていた。第3波の前に対岸まで水が引き海底が露出。小学5年の時チリ地震津波を目撃し、其の時も引波の記憶があり、避難の必要性も判っていたが海底露出を見て、直感的にただ事ではないと思った。



写真5: 雄勝湾(引波で雄勝湾の海底が露出)



写真6: 雄勝港に流れ着いた家屋

【宮城県山元町 磯浜漁港周辺にて】

漁港に所属する漁船は全てやられた。1隻だけ沖に避難するのを高台から見ていたが第3波に飲み込まれ消失した。引き波時の海底露出で座礁したと思う。

係留していた船は、津波の外力で粉々になった。気仙沼市など船が陸に打ち上げられた所は、ゆるい流れで流されているが、磯浜漁港は外洋に面しているため、津波のパワーが巨大すぎた。当地区のような遠浅海岸では、沖に避難するのはかなり危険である。

漁船を調達し一刻も早く漁を再開したいが、原発から60kmしか離れておらず、沖合の汚染状況や風評被害が気になっている。宮城県に聞いても何も教えてくれない。



写真7: 山元町の海岸堤防(引波で陸側が崩壊)



写真8: 全壊した排水機場と露出した排水樋管

⑧ 復興に向けて

東北に住む建設技術者として早期復興を使命と感じている。今後は『想定外では済まされない』、全てを想定した国土保全に向け、一生涯の仕事として取り組むことを宣言する。

本部の紹介

代表者氏名: 田村 裕美
部 門: 建設部門



■ あいさつ

このたびの一連の大災害に際し、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また復興支援に携わっている多くの仲間に敬意を表します。

私達の委員会は研修委員会の下部組織として、主に青年技術士を対象に様々な活動を展開しています。スタッフは本業の傍ら、時間を創出し委員会の運営や全国大会の準備に携わってきました。この経験を通して得られたモノ・ヒトはかけがえのない財産です。

今後も青年技術士の更なる飛躍のため、ご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

■ メンバー紹介

【委員・委員補佐】

| | | |
|-----------------|------------|---------------|
| 石井利教(情報工学) | 石関学(電気電子※) | 春日桂一郎(経営工学) |
| 金子淳一(情報工学) | 未廣多恵子(化学※) | 鈴木史人(経営工学) |
| 嵐田泰彦(上下水道/衛生工学) | 関卓史(機械) | 仁田晃人(電気電子) |
| 鷹尾伏亮(電気電子) | 高橋政治(金属) | 武井遼(経営工学) |
| 田村裕美(建設) | 中嶋秀朗(機械) | 中垣隆雄(機械) |
| 根本英俊(化学) | 平原賢志(化学※) | 北條健一(水産) |
| 藤井佳直(情報工学※) | 松本正人(建設) | 松永温史(機械※) |
| 三留規誉(生物工学) | 宮本忠博(経営工学) | 渡辺弘毅(建設) |
| 渡辺春菜(化学※) | 山地真吾(機械) | 山中淳至(原子力・放射線) |
| 横井弘文(電気電子) | 横田幸利(衛生工学) | |

(アイウエオ順、支部委員除く、※は技術士補、修習技術者)

【新任委員・委員補佐】

小澤俊博(建設)
片桐勝広(電気電子)
佐藤理英(化学)
品田義政(機械)
土井一寿(生物工学)
山本憲志(金属)

【サポートスタッフ】

一花裕一 太田道宏 葛西健司
桑原和弘 昆野哲也 佐藤泰秀
澤田石朋彦 菅沼泰久 外山篤
中村修一 野々垣智樹 松岡大祐
松田みゆき 山崎浩司

■ 平成 22 年度活動報告と反省

平成 22 年度は委員の任期 2 年目であり、メンバー同士がそれぞれの個性を理解し活動をすすめました。また、委員合宿を行って、活動の方向性をすりあわせ、平成 23 年 8 月の全国大会を目標として、各種活動を進めてきました。

1. 特別例会

2011 年 4 月に『1・2 次試験合格者歓迎会および青年技術士展』を開催しました。今年は 2011 年 3 月の東日本大震災を受け、『技術士になった』自分に何が出来、またどうして行くか』について社会に対し明確な発信を行う。』をテーマとしてグループディスカッションを行いました。

2. 若手技術者の国際交流活動

2010 年 10 月に下関で行われた第 40 回日韓技術士大会では、第 5 分科会で本部から 2 名が発表しました。第 6 回 日韓技術士親善サッカー大会では、日本チームが 1 対 0 で勝ち、6 年目にして初勝利となりました。2010 年 11 月にベトナムで行われた YEAFEO17 へ 3 名の会員を派遣し、参加支援を行いました。また、2011 年 2 月には、香港に本部からの 2 名を含む 3 名の技術者を派遣し、交流を行いました。YEAFEO17 及び香港交流については 2 月に参加報告会を実施しました。

3. 若手技術者向け研鑽活動

年間を通じて、講演会・勉強会 5 回、テクノツーリズム 4 回、スポーツ交流を含む交流会を 4 回開催しました。「賛同者を満足させ、増やすこと」を例会の目的として定め、参加型の例会を企画するようにしました。また、技術士第一次試験合格者歓迎会・JABEE 修了見込み者ガイダンスのパネルディスカッションを企画・開催したり、広報戦略特別委員会の技術士紹介インタビュー映像の撮影に協力したりするなど、技術士会としての取り組みへも積極的に参加しています。

4. 各支部青年技術士組織との交流

2010 年 6 月には本支部交流会議を開催し、9 月の技術士全国大会(四日市)では青年の集いへの参加や、青年技術士交流誌の作成および配布を行いました。

5. 委員会の運営・企画・管理および広報活動

2010 年 10 月には、委員合宿を行い、全国大会にむけて委員会の活動方針についての議論を行うとともに委員間での交流を図りました。

毎月の定例会議(運営委員会)の開催に当たっては、インターネット会議を導入するとともに、外部サーバを利用した会議・例会への出欠管理を行いました。議事録や行事開催時の準備資料・報告書類をデータベースで保管管理し、経験を蓄積して生かす体制を整えています。なお、11 月より定例会議を公開にし、オブザーバーとして誰でも参加できるようにしました。

青年委員会の Web サイトで行事の事前広報だけでなく、結果の報告を積極的に行い、活動内容がわかりやすくなるように心掛けてきました。また、活動ごとのブログ運営やニュースレターの配信を継続的に行っていますが、3 月 11 日の震災に対し、技術者からの正しい情報発信をするべく速やかに特別ブログも立ち上げました。

■ 平成 23 年度活動計画と抱負

本年は委員の改選年度にあたります。2011 年 8 月の全国大会までは、新旧委員で力を合わせて準備を進めていきますが、その後は新たなメンバーで活動していく予定です。これまでの伝統を踏まえて方向性を探りながら活動を進めていきたいと考えています。

- 青年技術者向けの研鑽事業の企画・実施
- 各支部や技術士会外部の組織との交流活動
- 国際交流活動
- IT 技術の活用による遠隔地との交流活動の模索

■ 特筆すべき事項

技術士 20 部門のうち、12 部門の方が参加しています。大学教員、大学院生、JABEE 卒業生など多様な背景をもつ委員が協力し、青年層ならではの企画・取組を行っています。

平成 22 年度活動風景

参加型例会

'10/11 企画プレゼン



'11/05 テクノ企画案検討



特別例会:合格者歓迎会('11/04)



フットサルを通じた交流活動

フットサル練習会



日韓技術士親善サッカー大会



国際交流活動

'10/10 日韓技術士大会



'11/02 香港交流



'10/12 YEAFE



北陸支部の紹介



代表者氏名:坂東 和郎

部 門:応用理学・建設・総合技術監理

■ あいさつ

平成 23 年度から北陸支部青年技術士委員長を務めています坂東和郎と申します。2 年間という短い任期ではありますが、全国の青年技術士との交流を深めながら、北陸地域全体の技術士交流をより活発にしていきたいと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。

■ メンバー紹介

北陸支部は新潟、富山、石川、福井の 4 県の技術士により構成され、総合技術監理を除く正会員数は、新潟県 277 名、富山県 100 名、石川県 105 名、福井県 104 名の計 586 名となっています(平成 23 年 5 月末現在、複数部門取得の重複含む)。青年については、若手会員が少ないこともあり「自称青年を認める」などその定義は曖昧であり、いわゆる青年から後期青年(北陸では“後期好青年”ともいう言葉もある)までやや幅広い青年層が頑張っているのが特徴です。委員会のメンバーは表のとおり、委員長 1 名、副委員長 3 名、委員 10 名の計 14 名で構成されています。所属を見ていただければお解りのように、みな北陸を愛し、離れたくても離れることができない技術士たちです。この他に 4 名のOBがオブザーバーとして、委員会活動を積極的にサポートしてくれています。また、事務局のある新潟市に務める委員の 3 名は、北陸支部総務委員会などの若手メンバーとしても活躍しています。



北陸支部のいわゆる青年と後期好青年たち(平成 23 年 7 月拡大青年技術士委員会議 in 福井)

平成 22 年度・23 年度 北陸支部青年技術士委員会名簿(○は新任)

| | 氏名 | 県 | 部門(専門) | 所属 |
|------|---------------|-----------|----------------------------|---------------|
| 委員長 | 坂東和郎○ | 新潟 | 応用理学・建設・総監(地質、道路) | (株)興和 |
| 副委員長 | 岡野康弘 | 新潟 | 生物工学(発酵、応用微生物学) | 新潟工科専門学校 |
| | 小見直樹※1 | 新潟 | 建設・農業・総監(都市計画、土地利用計画、地域振興) | エヌシーイー(株) |
| | 森 照代 | 福井 | 建設・環境(建設環境) | (株)北陸環境科学研究所 |
| 委員 | 青木 厚 | 新潟 | 建設(河川砂防) | (株)オリス |
| | 五十嵐 敦 | 新潟 | 化学(補) | Web ジャンクション効果 |
| | 大高 章※2 | 新潟 | 建設(法面緑化) | グリーン産業(株) |
| | 片岸将広○ | 石川 | 建設(都市及び地方計画) | (株)日本海コンサルタント |
| | 小林秀一○ ※1,3 | 新潟 | 建設(鋼構造及びコンクリート) | (株)水倉組 |
| | 佐藤洋子 | 新潟 | 建設(基礎、コンクリート構造の設計) | (株)構造技研新潟 |
| | 大門健一○ | 富山 | 建設(都市及び地方計画) | (株)新日本コンサルタント |
| | 長谷川正幸○ | 新潟 | 化学(化学装置及び設備) | 信越化学工業(株) |
| | 三善啓昭 | 新潟 | 上下水道(補) | 敦井産業(株) |
| 森 将恒 | 新潟 | 建設・総監(道路) | (株)キタック | |

北陸支部委員会兼務 ※1:地域交流委員、※2:教育広報委員、※3:総務委員

■ 平成 22 年度活動報告と反省

北陸支部青年技術士委員会では、勉強会、現地学習会、講演会などとおして、若手技術者の技術力の向上と、それに伴う意識向上をつねに心がけさせ、技術者全体の資質向上を図ることを活動方針として、毎年、拡大青年技術士委員会議、見学会 1 回、講演会 1 回を行うことにしています。以下に平成 22 年度の活動報告をします。

(1) 第 5 回拡大青年技術士委員会議〔平成 22 年 7 月 10～11 日:金沢市〕

金沢市で開催した会議には 18 名が参加し、自己紹介、各県の活動状況と課題の報告に続き、「青年技術士会としてやりたいこと・やって欲しいこと」をテーマに自由討論を行いました。その中での出された意見をまとめると、①技術研鑽に限らず本音で語れる場でありたい、②他部門同士・女性技術者同士などネットワークを拡大させていきたい、③JABEE 世代の取り込みなど 20～30 代前半の人を入れていきたい、となりました。

その他、仕事・後輩指導・家庭・子育てに多忙な中堅としての立場、交通費等の費用の問題など青年ならではの問題も出されました。このような各人が抱える問題を話し合える場であることも、この会議の重要な役割といえます。



拡大青年技術士委員会議 in 金沢

また、会議に合わせ「金沢のまちづくり」見学として、しいのき迎賓館、金沢城、河北門、長町の集真藍(あぢさい)工房、長町界限を見学したほか、金石・大野地区では、「町家案内・しょうゆ蔵を活用した取組」について金沢大学の小林史彦さんから説明して頂きました。

(2) 見学会〔平成 22 年 10 月 2 日：新潟市〕

「地域の活力・底力～新潟東港地域における生産と港湾機能～」をテーマに開催した見学会には 18 名が参加し、「サトウのごはん」で有名な佐藤食品工業(株)東港工場(米飯製造専用工場)と、(株)新潟国際貿易ターミナル・新潟東港中央ふ頭 1 号岸壁を見学しました。佐藤食品工業では洗米からご飯が炊きあがり、パック詰めされていくまでの一連の過程を見学し、国際貿易ターミナルでは、コンテナヤードと、大型船の接岸している岸壁を見学しました。どちらもこの地域を支える重要な施設であり、地域の活力・底力を再認識できる良い機会となりました。

(3) 講演会〔平成 23 年 2 月 19 日：新潟市〕

「環境と地域活力」をテーマに、富士重工業(株) HEV 開発部の荒井一真さんから「電気自動車(EV)の技術動向」、環境経済(株)(青年技術士交流実行委員長)の田村裕美さんからは「気候変動対策としての CO₂ 削減人材育成」と題してご講演頂きました。参加者は 43 名で、講演終了後は東京から迎えた講師を交え、新潟の地酒と越後もち豚料理を堪能しました。

以上が青年技術士委員会の正式行事となりますが、この他にサッカー交流も頻繁に行われ、汗を流した後、喉を潤す前に、講演会も開催しています。このように活動している北陸本部ですが、平成 22 年度の反省点としては、若手会員がなかなか増えない、女性会員も少ないことがあげられています。

■ 平成 23 年度活動計画と抱負

平成 23 年度も青年技術士の技術研鑽だけでなく、さらなるネットワークの拡大とコミュニケーションの活性化を目指して、以下の行事を企画・運営していきます。

①第 6 回拡大青年技術士委員会会議 in 福井(7 月 2～3 日)

終了しました。参加者 29 名で大いに盛り上がり、大変有意義な会議と見学会でした。

②青年企画見学会(10 月 1 日(予定))

「地域の活力・底力」をテーマに再生可能エネルギー関連施設を見学する予定。

③青年企画講演会(1～2 月)

現在企画中。

④その他(定例委員会、忘年会)

以上が、今後の計画になります。どうぞ宜しくお願い致します。



金沢・長町界限の見学



接岸中の大型船に近づく参加者

中部支部の紹介



代表者氏名 : 高瀬 春之
部 門 : 経営工学

■ 代表者あいさつ

全国本支部の皆様こんにちは。中部青年技術士会代表幹事の高瀬です。

先日の東日本大震災で被災された皆様には大変心よりお見舞い申し上げます。今後の復興につきましては、中部青年メンバー一同、現場支援、義援金支援など協力を惜しまず活動していきたいと思っております。共に一歩ずつ前に進んでいきましょう。

私は、今年代表幹事に就任してから2年目となります。昨年の初年度を振り返ると、最初に思い出すのが技術士全国大会です。いきなり技術士の大イベントである全国大会青年イベントを任せられ、あの短い準備期間で、専門である経営工学手法を駆使し、完遂することができたことをうれしく思っています。自分を褒めると同時に共に協力をしてくださった中部の幹事・会員・OBの方々や各本支部の皆様本当に感謝する1年だったと思っております。

今年度は、全国大会で培った結束力をそのまま維持継続し、引き続き中部青年技術士会の意志をしっかり背負うと同時に各本支部の方々とも積極的に交流を図っていききたいと思います。また、来年度開催される日韓技術士会議名古屋大会に向けても準備していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。

■ メンバー紹介

中部青年技術士会は、代表幹事1名、副代表幹事2名、幹事14名、会員多数名にて構成されております。運営メンバーは下記の通りです。

(1) 代表役員(代表幹事、副代表幹事)

代表幹事 高瀬春之 氏(経営工学) (再任)

副代表幹事 西垣治郎 氏(総合技術監理、上下水道)*代表第一代行 (継続)

副代表幹事 河原弘明 氏(総合技術監理、建設) *日韓技術士会議担当(新任)

(2) 役員(幹事)

栗本和明 氏(総合技術監理、建設)、石川貴史 氏、(機械)秋山幸之朗 氏(士補:機械、
修習:情報工学、航空宇宙)、山川和志 氏(修習:環境)、加藤雅嗣 氏(修習:建設)、
木村琢磨 氏(修習:電気・電子)、千坂博明 氏(修習:応用理学)、岸本深雪 氏(機械)

[以上 継続]

倉地晴幸 氏(総合技術監理・情報工学)

[以上 再任]

土性弘明 氏(電気電子)、加藤靖広 氏(総合技術監理・建設)、藤田政利 氏(機械)、

佐藤大地 氏(修習:機械)、伊勢野暁彦 氏(総合技術監理・建設)

[以上 新任]

■ 平成 22 年度活動報告と反省

[例会関連]

- ・4 月総会 2010/04/10(土) 内容:平成 21 年度活動報告と会計報告、平成 22 年度と活動計画
- ・6 月例会 2010/06/12(土) 内容:有志会員(5 名)による講演「会員の活動内容を知ろう！」
- ・7 月例会(中部企業内技術士懇談会との合同例会) 2010/07/31(土)
内容:外部講師による講演「2 テーマ」
- ・10 月特例会 2010/10/20(水) 内容:技術士全国大会の報告、お茶会 他
- ・11 月例会 2010/11/13(土) 内容:総合治水対策特定河川事業 青木川放水路工事現場見学
- ・1 月特例会 2011/01/19(水) 内容:今年の抱負を語らうなどフリートークがやがや会
- ・2 月例会 2011/02/12(土) 内容:製造WG活動報告「レンズ付フィルムカメラの分解」

[WG 関連]

★内容:“詳細別紙参照”

[本支部イベント関連]

- ・青年技術士交流実行委員会総会 2010/6/26(土)～27(日)
内容:拡大運営委員会、グループ討議、テクノツーリズム
- ・第 40 回 日韓技術士会議(日本 山口県下関市:海峡メッセ下関) 2010/10/16(土)～10/18(月)
内容:視察 澤副代表幹事

★第 37 回 技術士全国大会(三重県四日市) 2010/09/24(金)～2010/09/26(日)

内容:“詳細別紙参照”

★COP10 パネル出展 2011/10

内容:“詳細別紙参照”

- ・第 3 回中部支部研究業績発表会 2011/02/19(土)
内容:学生、会員発表会

- ・日本技術士会中部支部会合

[活動成果]

三重県技術士全国大会青年イベントに尽きると思います。皆さんの限りないご協力のもと、成功することができたと思います。これを通じて会員同士の結束力が増したと思います。

[今後の課題]

- ・新規会員の定着化 ・若手会員の増員 ・3 役、幹事の世代交代 ・WG 活動の進化

■ 平成 23 年度活動計画と抱負

[活動テーマ]

技術士のネットワークを最大限に活用し、自らの行動力と継続力を発揮して、夢を実現させ次世代につなげよう！

[目標]

例会参加者数倍と若手会員数増加 AVE30 名
各部会との連携強化

[主な活動予定]

- ・各例会 ・WG(建設、製造、環境) ・2012 年度日韓技術士会議(名古屋大会)準備

■ 支部の特筆すべき事項

WGの紹介

◆建設WG

建設WGは、建設関係の技術部門の方を主なメンバーとして活動しています。現在は会員約 10 名で建設工事現場や既存の土木構造物の見学などを中心に活動しています。『会員の意見を大切に楽しく活動』をモットーにした WG です。



◆製造—モノ作りWG

製造WGは、主に設計・製造に関わる技術士、技術士補、修習技術者が集まって活動しています。H22 年度のテーマは、「分解」です。カメラやドライバー、時計を題材として構造・機能を勉強し、そして現物を分解してみようという試みです。最初の題材はカメラです。30 年以上前のフィルムカメラから、デジタルカメラまで、各種カメラを分解し 2 月例会にて活動報告をしました。



◆環境WG

環境 WG は、昨年名古屋で COP10 があるのを見据えて 3 年前より活動してきました。H22 年度は、2009 年までの議論から日本の害鳥獣について議論しています。11 月には害鳥獣の価値も食べる事で考えてみました。進化論でおなじみのダーウィンは、「生き残るのは最強の種ではない。最も高い知能を有している種でもない。最も敏感に変化に反応する種である」と述べています。今後の人間社会などにおいて、生き残っていくのはどんな種(生物)なのでしょう？



COP10 パネル出展

環境WGを中心とした青年技術士の有志一同により、昨年 10 月に名古屋で行われたCOP10の際に、「水と食から考える環境問題」を題してパネルを出展しました。内容は、日本に輸入されるバーチャルウォーター(仮想水)の問題や世界の水に関する環境問題、日本の食糧自給率、日本の農地の減少と生態系についてなど水と食に関する様々な問題について取り上げました。6 日間のブース出展を通じて延べ 1200 人以上の方にご来場頂き、これまでバーチャルウォーターについて知らなかった人にバーチャルウォーターを知ってもらいきっかけになったと思います。



三重県全国大会の青年イベントの紹介

◆青年技術士の集い

9月24日14:00より、じばさん三重4階視聴覚室にて「青年技術士の集い」分科会を開催しました。当日は、全国本支部の青年技術士を中心として全国から約60名という多数の方々にご出席頂き、“夢”をキーワードに「MIE大会宣言」を決定し、それに向かって行動することを誓いあいました。



MIE大会宣言
“技術士の「①ネットワーク」と「②行動力」で「③継続」して社会に貢献しよう！”

◆青年交流会

9月24日夜、2次会的雰囲気の中、お酒を交えて、各本支部のおもしろ紹介や技術士クイズ～ビンゴ形式にて～(仮装付き)などを行い、非常に盛り上がりました。

中部と言えばやはり仮装？でしょうか・・・笑



◆青年テクニカルツアー

9月25日夕方～26日、湯の山ロッジにて宿泊宴会、川越火力発電所、なばなの里にて見学会を実施しました。全国青年会員の皆さんとの結束が深まりました。また、次回東京大会への引き継ぎも行いました。



近畿青年技術士懇談会



代表者氏名：井上 信治

部 門：応用理学部門

■ 代表あいさつ

近畿青年技術士懇談会の代表幹事も 2 期目になりました。震災、原発・・・科学と社会の関係を考えない日がないほどの事態になっています。改めて、東日本大震災で罹災された方々に心からお見舞い申し上げます。

近畿青年技術士懇談会は平成3年に近畿周辺の有志が立ち上がって組織されました。以来、月1回の例会での技術交流をベースに、日本技術士会の下部組織ではありませんが、近畿支部のご指導やご理解も賜りながら、小さいながらも熱い活動を脈々と続けています。

今年度は、近畿青年技術士懇談会もいよいよ創立20周年を迎えます。11月23日(祝)にはOB・OGのみなさんと共に、青技懇の「ハタチ」のお祝いをすべく、準備を進めているところです。

また来年は、技術士の全国大会が大阪で開催されます。青年交流の場づくりに当懇談会として誠意をもって協力させていただきますとともに、これを機会として日本技術士会との関係のあり方を、近畿における青年交流の視点で、関係諸団体のご意見もできるだけ賜りながら探って行きたいと考えています。

いずれにせよ、若い方々の活躍や成長、気づきの場として、私達近畿青年技術士懇談会は、これからも特に異分野の交流を意識して、広く社会を見据えた活動を続けていきたいと思っています。引き続き、私達近畿青技懇(www.seigikon.jp)への熱い視線を賜りますよう、メンバーを代表してお願いし、ごあいさつとさせていただきます。ありがとうございます。

■ 幹事の紹介

代表幹事 井上 信治(技術士・応用理学部門)

会計 荻谷 英明(技術士・環境部門)

事務局 赤穂 清隆(技術士補・経営部門)

一花 裕一(技術士補・化学部門)

幹事団

宮西 健次(技術士・化学部門)

平田 友美(技術士・建設部門)

小宮 洋行(技術士・上下水道部門)

今井 寿子(技術士・電気・電子部門)

藤本 喜敏(技術士・機械部門)

小林 祥訓(技術士補・上下水道部門)

喜多 繁幸(技術士・機械部門)

太田 高志(技術士補・電気・電子部門)

■ 平成 21 年度活動報告(2010.6~2011.6)

講演会, ミニ講演会, ワークショップを例会として 11 回実施。技術士による技術講演はもちろん, 技術士試験・心構えから, 社会貢献のテーマまで, ジャンルにとらわれず幅広い講演内容を展開しています。

▼技術講演

2010.06.25「希少両生類の保護及び繁殖」:清水 龍 技術士(建設部門)

2010.08.27「身近な資源 地下水 ~水循環と諸問題、適正利用について~」
:小宮 洋行 技術士(上下水道部門)

2011.02.25「子供に外遊びを」:北添 慎吾 技術士(建設部門)

2011.04.29「仕事に生かせ! Google ドキュメントとクラウドコンピューティング」
:藤本 純一 技術士(建設部門・応用理学部門)

▼技術士制度, 技術士の心構え

2010.06.25「技術士第二次試験受験体験記」:清水 龍 技術士(建設部門)

2010.11.24「赤貧 技術士事務所 奮戦記」:久保田 和広 技術士(機械部門)

2011.01.21「今、技術者に求められるマネジメントスキル」
:上田 善彦 技術士(総合技術監理部門・建設部門)

2011.03.26「今後の技術士に求められる姿」
:松永 健一 技術士(原子力・放射線部門・機械部門・総合技術監理部門)

2011.06.24「ロジカルシンキングで課題解決力を身につけよう」
:平田 友美 技術士(建設部門)

▼社会との関わり, 社会貢献

2010.09.23 オープンフォーラム「皆のちからで いざ、社会へ」
「成果を出す技術者とは」
:ハタ コンサルタント株式会社代表取締役 降籬 達生 技術士(建設部門)
「アウトリーチ活動のスタンス~実践活動から思うこと」
:有限会社 FIELD AND NETWORK 取締役 大草 芳江氏

2010.10.22「アジアの生活、リアルなお話」:アジア協会 松井 聡子様

2010.12.04 ワークショップ「折り紙からヒント, 新コミュニケーションツールの提案」
:渋谷 高広 技術士(機械部門)

2011.04.29「Nissan LPIE での活動とそこで得たもの」
:渋谷 高広 技術士(機械部門)

2011.05.27「意外と知らない転職ノウハウ」 =知らないだけで迷い人=
:赤穂 清隆 技術士補(経営工学部門)

■ 活動紹介

せっかく技術士資格をとり、様々な技術士の会合に顔は出すものの、技術士資格を社会に活かす機会
は意外と少ない...という実感を持っておられる方々を対象として、科学と社会との関わりを深く見つけた活
動をされている方の講演を核に、参加者みなさんで議論する場としてオープンフォーラムを企画した。

近畿青年技術士懇談会オープンフォーラム
メインテーマ 「皆のちからで、いざ、社会へ」

日時:2010年9月23日 13:30-17:00/場所:大阪市生涯学習センター 第一会議室

▼講演 1. 「成果を出す技術者とは」

降旗達生 技術士(ハタ コンサルタント株式会社)

93年技術士登録し、中部の青年部会に入会。入会時わずか5人程度の会員数で、いきなり理事に就任。その後活動を活発にしていき、2000年頃には登録会員200人程度にまで増員できた。その後、2003年に中部に建設部会を数名の仲間と創設。こちらも順調に活動を活発化している。この間、主催した市民向けシンポジウム「わかりやすく解きあかす」シリーズは計6回開催の間、500~700名の動員を記録。技術士の仕事は「解りやすく解き明かす」こと。難しいことを分かりやすく。これこそ技術士(者)の仕事。

当日は、成果を出す技術者の3つの条件を示し、能力を高め、「世の中のために働くこと」こそ最も意義あることだご講演された。

▼講演 2. アウトリーチ活動のスタンスについて~実践活動から思うこと

有限会社 Field and Network 取締役 大草 芳江 氏

昨年度の技術士全国大会にて、外部から見た技術士についてご講演いただいたことをご縁に、青技懇でも講演いただくことをご快諾いただけた。人と人・科学・社会をつないでいくことをモットーにご活躍中。当日は、大草さんらが主催された「学都仙台・宮城サイエンスディ」の体験型科学イベント取り組みについて、ご自身が活動をスタートした動機も踏まえて、ご講演された。

▼国際グリーンスカウト大阪出張出前講座 「ウォーターの水の授業」報告(会員報告)

宮田 秀夫 技術士(環境部門)

近畿青年技術士懇談会の社会活動として、国際グリーンスカウト大阪とのコラボレーションを企画している。今回、企画の第2弾として、8月に先方が行う5泊6日のキャンプの中で行われる「水の授業」のための「授業づくり」支援として、7月3日にキャンプリーダー向けに行った活動を報告された。

中国支部の紹介



代表者氏名：高木 周一

部 門：環境部門／上下水道部門

■ あいさつ

2009年の6月から青年技術士交流委員長を務めさせていただいている高木です。今年の6月で無事に2年間の任期を全うしましたが、青技交メンバーから“高木にもう一期やらせてやろうじゃないか”という意見が出まして、引き続き委員長を務めさせていただくこととなりました(泣)。

あと2年、青年技術士交流委員長として、一人でも多くの若者に社外活動の素晴らしさを体験してもらえるように交流会を盛り上げていきたいと考えています。

■ メンバー紹介

中国支部青年技術士交流会員(ML会員)は、現在200名以上の方が登録されています。ここでは、交流会を運営している青年技術士交流委員会のメンバーを紹介いたします。中国支部の青年技術士交流委員会は15名の委員で構成されていますが、その中でも若い修習技術者が多く、とても活気のある委員会となっています。

| 役職名 | 氏名 | 部 門 | 所在 | 担 当 |
|------|-------|----------|-----|-------------------------|
| 委員長 | 高木 周一 | 環境／上下水道 | 広島県 | 全体統括 |
| 副委員長 | 森保 直也 | 建 設 | 広島県 | 全体統括補佐、各県交流リーダー |
| 委 員 | 鈴川 竜司 | 電気電子 | 広島県 | 例会リーダー、ML管理 |
| 委 員 | 萬谷 昌毅 | 上下水道 | 広島県 | 社会貢献担当、見学会・ペあせろベ担当、会計担当 |
| 委 員 | 松本 伸介 | 農業(修習) | 広島県 | 見学会・ペあせろベリーダー、各県交流担当 |
| 委 員 | 岡 正臣 | 建設(修習) | 広島県 | 例会担当、各県交流担当 |
| 委 員 | 古賀 亮人 | 建設(修習) | 広島県 | 社会貢献リーダー、HP管理リーダー、ML管理 |
| 委 員 | 新淵 大輔 | 環境(修習) | 広島県 | 社会貢献サブリーダー、HP管理担当 |
| 委 員 | 守谷 佳也 | 上下水道(修習) | 広島県 | 例会担当、見学会・ペあせろベ担当 |
| 委 員 | 金高 智之 | 建設(修習) | 広島県 | 例会担当、社会貢献担当 |
| 委 員 | 双和 祥二 | 機械(修習) | 広島県 | 社会貢献担当、見学会・ペあせろベ担当 |
| 委 員 | 井上 真 | 応用理学 | 島根県 | 各県交流担当 |
| 委 員 | 池末 二郎 | 建 設 | 山口県 | 各県交流担当 |
| 委 員 | 今泉 雅之 | 建 設 | 岡山県 | 各県交流担当 |
| 委 員 | 福元 和孝 | 建設／応用理学 | 鳥取県 | 各県交流担当 |

■ 平成 22 年度活動報告と反省

昨年度の活動を下表にまとめました。振り返りますと、毎月の勉強会の参加者が増えてきました。平成 21 年度までの参加者は 15 名～20 名程でしたが、22 年度は 20 名を超えることが多くなりました。勉強会以外では、昨年度は日韓技術士会議が下関で開催されたこともあり、山口県技術士会の青年部と交流が深まりました。今後も各県技術士会(特に岡山県、鳥取県)の青年層との交流を進めていきたいと思えます。

平成 22 年度活動一覧表

| 開催月 | 分類 | 内容 | 参加者数 |
|---------|--------------|---|------|
| H22.5 月 | 見学会 | 鞆の浦、阿伏兎観音 | 37 名 |
| 6 月 | 総会 | 規約改定、新委員選出など | 19 名 |
| 7 月 | 例会・勉強会 | バリアフリー社会について | 17 名 |
| 8 月 | 例会・勉強会 | ネパールへのコンポスト技術導入について | 22 名 |
| 9 月 | 例会・勉強会 | 写真で学ぶ下水道 | 14 名 |
| | 技術士会行事 | 技術士全国大会(三重・四日市), 青年の集い | 4 名 |
| 10 月 | 例会・勉強会 | 西欧州インフラ整備の実情について | 17 名 |
| | 技術士会行事 | 日韓技術士会議(下関) | 多数 |
| | 交流企画 | 国際交流フェスティバル「ぺあせろべ 2010」参加 (日本酒販売, 子供向け企画を実施) | 30 名 |
| 11 月 | 例会・勉強会 | Windows7 と Office2010 を使いこなすには | 15 名 |
| | 交流企画 | 島根県技術士会主催「おもしろ技術塾」 | 38 名 |
| 12 月 | 特別例会・勉強会・忘年会 | 青年技術士の社会貢献活動に向けて | 20 名 |
| H23.1 月 | 例会・勉強会 | 炊飯工場について | 16 名 |
| 2 月 | 例会・勉強会 | 変位制限装置付き落橋防止装置の耐震補強効果について | 15 名 |
| 3 月 | 例会・勉強会 | 気候変動対策としての人材育成について 希少野生動植物種保護増殖事業(タンチョウ)について | 19 名 |
| 4 月 | 例会・勉強会 | 新聞記者の仕事について | 32 名 |
| 5 月 | 例会・勉強会 | ソーラー型浄水装置を用いた被災地支援活動報告 | 24 名 |
| 6 月 | 例会・勉強会 | 日本農業における 6 次産業化の推進 | 26 名 |

■ 平成 23 年度活動計画と抱負

今年度から、新たな取り組みとして社会貢献活動を行うこととなりました。今年、『小学生を対象とした夏休みの思い出作り』ということで、広島県の橋をめぐり、橋や川などについて親子で学んでもらう企画を実施する予定です。

月に一度の勉強会については、マンネリ化を防ぐために技術系以外の外部講師の招聘や実際に手を動かす「ものづくり体験」などを企画していく予定です。また、勉強会はスカイプを活用して各県への中継を進めていきたいと考えています。

以上

四国支部紹介

代表者氏名： 小笠原 誠
部 門： 建設部門



■ あいさつ

昨年度、新たにスタートした四国支部は、現時点において青年技術士が主体となる委員会等は組織化できておりません。しかし、今後の支部の活性化や本部・他支部との人的交流や情報共有・交換は、まだまだ発展途上の我々四国の青年技術士のスキルアップのためにも、必要不可欠であると考えております。以上のことから、平成 23 年度を組織化の準備期間とし、平成 24 年度には正式な「四国青年技術士交流会(仮称)」として組織化したいと考えております。

交流会の起ち上げや運営に際して、本部ならびに他支部の青年技術士の皆さまにはご助言、ご指導を賜りたくお願い申し上げます。



■ 四国支部の概要

ここで、四国支部全体をご紹介します。四国支部は平成 22 年 4 月に、それまでの中・四国支部から分離独立し誕生いたしました。四国支部の会員数は、平成 23 年 4 月末現在で 418 名(正会員 338 名, 準会員 80 名)となっており、最も小さな支部であります。

四国支部では、四国地域の特色を生かした「四国支部ビジョン」を制定しております。このビジョンに則した 5 つの事業方針を立て活動しております。

- 四国地域特有の自然災害に対して、関係機関と連携し、専門技術を活かし、防災・減災に向けた活動を行なう。
- 将来の道州制を見据え、四国地域の活性化に向けて、地域の特長を活かし、4 県が一つとなった活動(四【土】国 88 品)を行う。
- 社会に開かれた技術集団として、社会へ



【四国支部ビジョン】

科学技術の専門家集団として、四国地域特有の社会・自然・環境条件に対応した、安全・安心で心やすらぐ地域を創造するとともに、四国地域の活性化に向けて、地域組織と連携し、4 県の特長を生かした社会貢献活動を行う。(KEYWORD：自立・交流・変化)

の貢献活動を通じ、技術士が認知され、以って社会的地位の向上を目指す。

○技術士の技術向上と継続研鑽(CPD)活動を行い、技術士の資質の向上を図る。

○上記の活動においては、熟年技術者（シニアエンジニア）を活用するとともに、併せて若年技術者の育成を行う。

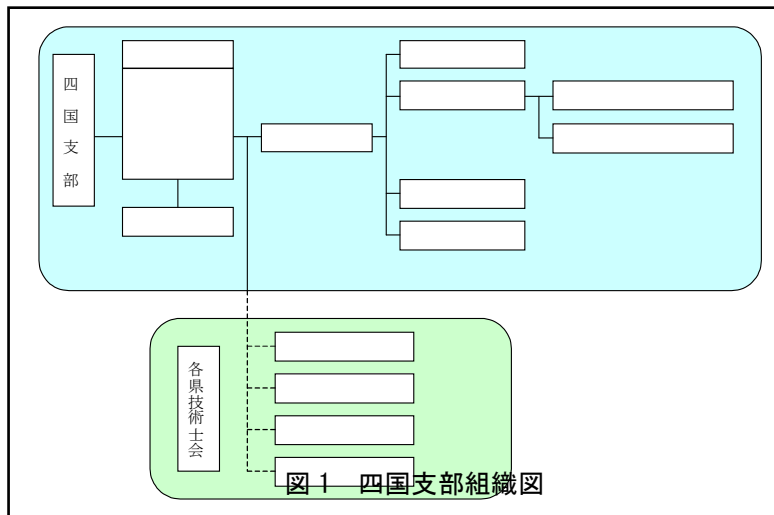
四国支部の組織図を右図に示します。四国支部の執行委員会として、「修習技術者支援委員会」と「防災委員会」があり、ここで、これら実行委員会の活動の一部を紹介いたします。

「修習技術者支援委員会」の活動の1つとして「**第一次試験合格者歓迎記念講演会**」を開催しております。平成 23 年 2 月 5 日に四国支部として初めて開催し、参加修習技術者から「二次試験への意気込みが高まった」など、有意義な会となりました。次に「防災委員会」の活動として、平成 22 年 7 月に開催された「**くらしと技術の「建設フェア」**」に出展しております。本部ならびに各県技術士会の活動記録のパネル展示や日本技術士会および防災支援委員会のパンフレットの配布等を行い、日本技術士会の防災支援活動の紹介を通し技術士及び技術士会の更なる認知度向上に努めております。

このような四国支部において、青年技術士(45 歳未満)の対象となる人員は、四国四県の合計で 58 名となっております。四県の中には、10 名に満たない県もあり、今後の会員拡大に向けても、若手技術者にとって魅力を感じる組織・活動が必要であると考えております。

表 1 四国支部青年技術士対象人員
(平成 23 年 6 月末現在)

| | 徳島県 | 香川県 | 愛媛県 | 高知県 | 合計 |
|----------------|-----|------|------|------|------|
| 45 歳未満 正会員数 | 9 名 | 21 名 | 18 名 | 10 名 | 58 名 |



■ 青年技術士交流準備会メンバー紹介

平成 24 年度の「四国青年技術士交流会(仮称)」起ち上げに向け、四国支部の修習技術者支援委員会において準備会を設置し、四国四県から集まったコアメンバーで活動を始めております。

表 2 準備会コアメンバー

| 所属県 | 氏名 | 部門 | 勤務先 |
|-----|--------|------|----------------|
| 徳島県 | 阿部 宏一 | 建設 | 四国建設コンサルタント(株) |
| | 佐藤 悦史 | 建設 | エスシー企画(株) |
| 香川県 | 綾 貴穂 | 建設 | 復建調査設計(株) |
| | 小笠原 誠 | 建設 | (株)四電技術コンサルタント |
| 愛媛県 | 吉岡 崇 | 応用理学 | (株)愛媛建設コンサルタント |
| | 宮内 大悟 | 建設 | (株)エイト日本技術開発 |
| | 稲村 貴志 | 建設 | (株)荒谷建設コンサルタント |
| 高知県 | 現在、調整中 | — | — |

■ 平成 23 年度活動計画と抱負

平成 23 年度における青年技術士交流準備会としての活動目標は、来年度に立ち上がる「**四国支部青年技術士交流会**」の活動方針・内容・計画を明確にすることと考えております。そのために、まずはコアメンバーの交流(まずは呑みましょう!)が重要であり、その交流から生み出される意見や要望から活動方針や内容を抽出したいと考えております。また、四国四県と云えども、なかなか全員が参加できる機会も少ないことから、コアメンバーに対するメールを活用したアンケート調査等も行い、幅広く意見を収集し、活動方針・内容・計画を具体化したいと考えております。

また、各委員会で開催される行事に合わせて、これまでに 2 回程度の青年技術士交流準備会を開催しております。今後も可能な範囲で顔を合わせ話せる機会を設け、交流を深めるとともに多くの意見の収集に努め、より良い活動方針等を見出したいと考えております。

四国支部は他支部に比べ小さな組織であることから、初年度から多種多様な活動は難しいと考えられます。しかし、志(方針)は大きく持ち、確実に活動できることを一つからでも着実に実施していきたいと考えておりますので、今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

九州支部の紹介

代表者氏名:持田 拓児

部 門:建設部門



■ あいさつ

今年で2期目に入りました、九州支部の代表を務めております、持田拓児と申します。

九州支部も徐々に、女性の割合が多くなり、以前にもまして御酒好きがそろったメンバーで、いつも和やかな雰囲気です。

■ メンバー紹介

| 役職 | 氏名 | 部門 | 住所 | 役割分担 |
|---|---------|------|-----|---|
| 委員長 | 持田 拓児 | 建設 | 福岡 | 青年技術士交流委員会運営総括 |
| 広報 | 上杉 吉史 | 建設 | 福岡 | ・メーリングリスト管理 ・定例会案内メール配信と参加名簿を担当Gへ |
| 会計 | 佐田 英一郎 | 建設 | 福岡 | ・現金・預金管理 |
| Aグループ ・6月見学会 ・8月特別例会 ・2月定例会 | ★ 箴島 秀利 | 化学 | 福岡 | ■担当グループの役割 ・各イベント準備全般 (会場手配、案内・次第作成など) ・運営委員会司会進行、参加受付 ①ホットな話題・ノウハウ・話題提供の案作成、運営委員会に提出(1ヶ月前) ↓ ②定例会案内作成 メール送付(3週間前) ↓ ③当日運営 ・受付 ・司会進行 講演者の弁当ビール準備 ↓ ④議事録作成・アップロード (1週間以内) |
| | 沖口 明香 | 修習 | 福岡 | |
| | 花田 俊弘 | 建設 | 福岡 | |
| | 稲垣 浩通 | 建設 | 福岡 | |
| | 西尾 行生 | 機械 | 佐賀 | |
| | 伊藤 英忠 | 応用理学 | 福岡 | |
| | 村上 昌彦 | 建設 | 福岡 | |
| | 上原 志穂 | 修習 | 福岡 | |
| 松井 マスミ | 修習 | 福岡 | | |
| Bグループ ・6月技術士受験支援 ・12月公開講演会 ・次年度4月合格CPD | ★ 田上 健一 | 建設 | 福岡 | |
| | 山田 伸雄 | 建設 | 福岡 | |
| | 松本 義信 | 建設 | 福岡 | |
| | 松尾 英輝 | 修習 | 福岡 | |
| | 前田 政弘 | 建設 | 福岡 | |
| | 石本 俊亮 | 建設 | 福岡 | |
| | 森川 敏郎 | 機械 | 福岡 | |
| | 高木 麻衣 | 建設 | 福岡 | |
| 森 浩光 | 建設 | 福岡 | | |
| Cグループ ・4月定例会 ・8月小学生自由研究会 ・12月望年会 ・次年度4月合格者祝賀会 | ★ 吉村 継彦 | 建設 | 福岡 | |
| | 田辺 努 | 機械 | 北九州 | |
| | 池田 圭一 | 応用理学 | 鳥栖 | |
| | 松尾 英典 | 機械 | 福岡 | |
| | 阿部 聖 | 建設 | 福岡 | |
| | 寺田 利博 | 建設 | 熊本 | |
| | 太田 あかね | 建設 | 福岡 | |
| | 柿本 悦二 | 金属 | 福岡 | |
| 古島 恵美 | 応用理学 | 熊本 | | |

★:グループリーダー

■ 平成 22 年度活動報告と反省

| 開催日時 | 場 所 | 会議・行事名 | 会 議・行 事 の 内 容 |
|------------------------------------|-------------|------------------|--|
| 平成22年4月23日 (金) 18:30~21:00 | 福岡ビル9階会議室 | 4月定例会 | ・「1分間スピーチ」 ・「地球温暖化防止への取り組み（講師：九州電力㈱大賀氏）」 ・「年間計画」他 |
| 平成22年6月23日 (水) 18:30~21:00 | 福岡ビル9階会議室 | 技術士受験支援活動 | 「修習技術者のための2次試験直前対策講座 ～あと1ヶ月でできること！～」 ・技術士合格体験談 ・直前対策講座 ・個人目標、グループ討議 |
| 平成22年8月20日 (金) 13:00~17:00 | 西部ガス㈱福北工場 | 小学生のための夏休み自由研究教室 | ・「西部ガス㈱福北工場内で見学」 ・「LNG（液化天然ガス）の実験・体験」 ・「自由研究レポート作成」 |
| 平成22年8月20日 (金) 18:00~21:00 | キリンピアホール | 8月特別例会 | ・ピアホール会議（自由研究の反省会） ・南九州エネルギー施設見学会の計画 |
| 平成22年10月30・31日 →台風により平成23年6月に延期 | 南九州方面 | 見学会 | 南九州のエネルギー施設でしたが、台風のより2011年5月に延期 ①串木野国家石油備蓄基地、②焼耐蔵“薩州濱田屋伝兵衛”、③山川地熱発電所、④知覧特攻平和会館 宿泊先：いやされの宿 田舎や（コテージ&バーベキュー） |
| 平成22年12月11日 (土) 13:30~17:00 | 福岡ビル9階会議室 | 公開講演会 | ・「大木町が目指す循環のまちづくり（講師：大木町-境課長）」 ・「ウォータープラザ北九州を活用した海外水ビジネス展開（講師：北九州市-大原理事）」 |
| 平成23年2月25日 (金) 18:30~21:00 | 技術士会九州支部会議室 | 2月定例会 | ・「合格祝賀会についての計画・確認」 ・「見学会スケジュール調整」 ・「夏休み自由研究教室のテーマ」 |

■ 平成 23 年度活動計画と抱負

| 日時 | 場所 | 会議・行事名 | 内容 |
|--|--------------|-----------------------|---|
| 平成23年4月2日(土) 17:15~19:00 | 商工会議所地下1階 | 技術士1次・2次試験合格祝賀会 | 技術士1次・2次試験合格祝賀会 |
| 平成23年4月22日(金) 18:30~21:00 | 福岡ビル会議室第1ホール | 青年技術士交流委員会平成23年4月定例会 | ・東北地方太平洋沖地震 復旧活動の一例（講師：成島秀利氏（西部ガス㈱）） ・東北地方太平洋沖地震と地震の基礎知識について ・東日本大震災の津波について |
| 平成23年6月4・5(土、日) | 南九州 | 見学会【南九州のエネルギー施設を訪ねて】 | ①串木野国家石油備蓄基地、②焼耐蔵“薩州濱田屋伝兵衛”、③山川地熱発電所、④知覧特攻平和会館 宿泊先：いやされの宿 田舎や（コテージ&バーベキュー） |
| 平成23年6月22日(水) 18:30~21:00 | 福岡ビル会議室第6ホール | 青年技術士交流委員会平成23年6月定例会 | ・1分間スピーチ ・技術士合格体験談 ・巨大地震・テロ-わが国の危機管理対策の現状と課題 |
| 平成23年8月20日(土) 13:00~17:00 | 福岡工業大学工学部 | 現役技術者が教える夏休み小学生自由研究教室 | ・空気圧ロボットアームの遠隔操縦体験 ・サッカーボールの魔球発射装置体験 ・風洞を用いた魔球の再現 など、多くの研究施設の見学と体験 |
| 平成23年8月20日(土) 18:00~ | ピアホール選定中 | 青年技術士交流委員会8月特別定例会 | ピアホールでの大反省会 |
| 平成23年12月10日(土) 13:30~17:00 ・18:00~ | 福岡ビル会議室第1ホール | 公開講演会・望年会 | ・選定中 |
| 平成24年2月24日(金) 18:30~21:00 | 技術士会九州支部会議室 | 青年技術士交流委員会2月定例会 | ・今年度のおさらい ・来年度の計画立案 |

青年技術士交流委員会の活動報告

青年技術士交流委員会とは、“自称”45 歳以下を対象とした若い技術者の集まりであり、また、異分野の技術者が集まる会というのが最大の特徴です。最近では、修習技術者や女性技術者の参加も非常に多くなり、活気あふれ、楽しく、自由な雰囲気での定例会や見学会など様々な行事を年間通して実施しています。

【①定例会】

2ヶ月に1度定例会を開催し、12月には年に1度の公開講演会を実施しています。昨年の公開講演会では、年間テーマである「九州の次世代エネルギー」に絡めて、「大木町が目指す循環のまちづくり(大木町役場環境課長)」、「ウオータープラザ北九州を活用した海外水ビジネス展開(北九州市建設局理事)」について講演をいただきました。今年は新たなテーマで、1年間委員会行事を進めてまいります。

【②修習技術者支援】

青年技術士交流委員会では、3年前より、修習技術者の指導についても力を入れ、6月に「修習技術者のための直前対策講座」を実施し、これまで、毎年合格者が出ております。

【③小学生自由研究教室】

我々若い技術者が子供たちにできることはないかと考えたイベントとして、「現役技術者が教える小学生のための夏休み自由研究教室」を3年連続8月に実施しました。一昨年は福岡市港湾局に御協力いただき、「福岡市アイランドシティ国際コンテナターミナル見学会」を実施し、昨年は「西部ガス(株)福北工場見学会」を実施し、身近なエネルギーがどのように作られ、各家庭に供給されているか体感してもらうことを目的として、見学や実験及び夏休みの自由研究作成を行いました。今年は福岡工業大学で空気圧ロボットアームの遠隔操縦体験・サッカーボールの魔球発射装置体験・風洞を用いた魔球の再現や多くの研究施設の見学と体験を行なう予定です。

【④見学会】

毎年10月末～11月初旬には、年間テーマに沿った見学会(1泊2日)を開催しております。昨年は鹿児島方面を予定しておりましたが、10月末の台風で延期となり、今年の6/4～6/5に再チャレンジしました。何と！1泊2日：10,000円と格安で、夜はバーベキューで盛り上がりました。

【⑤最後に】

私たちの委員会では、もっともっと若い技術者や多くの技術者の方に参加していただきたいと考えております。是非、九州支部 青年技術士交流委員会にご参加ください。出張の際にも、お気軽にお声をおかけください。



昨年12月(公開講演会)



昨年8月(小学生の夏休み自由研究教室:西部ガス工場見学)



今年6月(見学会:南九州エネルギー施設見学)



昨年9月(全国大会:四日市)

國際交流活動報告

国際交流活動報告

国際交流グループリーダー 三留規誉

1. 国際交流活動の趣旨

アジア・太平洋地域を中心に諸外国の若手技術者と相互交流を図り、会員に対して国際交流及び研鑽の機会を提供することを目的に活動を実施した。

2. 平成 22 年度の活動内容

平成 22 年度は、昨年度から継続して日韓、CAFEO/YEAFEO、香港、豪州の 4 つを柱として、国際交流活動を行った。

(1) 日韓技術士会議青年分科会、親善サッカー大会に協力(山口 下関/2010 年 10 月)

日韓技術士会議は、第 5 分科会および親善サッカー大会について、日韓技術士会議実行委員会への協力を実施した。

(2) CAFEO/YEAFEO 派遣(ベトナム ハノイ/2010 年 11 月)

CAFEO/YEAFEO は昨年に引き続き青年技術者(3 名)をシンガポールに派遣した。派遣者は公募により選出された。派遣者は引き続き青年委員会の活動に協力しており、委員会活動への興味付けのためにも有効な企画であることが立証された。

(3) 香港工程師学会(HKIE)との交流(2011 年 2 月)

香港の若手技術者との関係を強化するため、青年技術者(3 名)を香港工程師学会(HKIE)に派遣し、意見交換及び文化交流を行った。

(4) オーストラリア技術者協会との交流

日豪の若手技術者間の交流活性化と日豪技術士会間の関係強化を目的に、オーストラリア技術者協会への委員派遣を予定していたが、豪州側の青年委員会の体制変更の問題により、派遣時期を延期することとした。

(5) 国際交流成果発表会を開催(2011 年 2 月)

海外交流の成果を広く共有するため発表会を開催した。

3. 今後の活動・展開

日韓技術士会議においては、青年技術士の参加者数が増えて活動が活性化するよう、引き続き広報活動に努める。

CAFEO/YEAFEO は、青年委員会の交流活動において唯一の多国間交流の場である。公募派遣を継続実施し、ASEAN 加盟国を中心として交流を深化させる。

香港との交流も互いに相手国を訪問して交流を深めるという活動スキームが定着しつつあり、今後はより広い会員層へフィードバックを意識した交流機会を提供していく。

オーストラリアとの相互訪問については、日豪青年技術士会間の交流のあり方について引き続き検討する。上記のほか、さまざまな機会をとらえて国際交流チャンネル開拓の模索を続け、日本技術士会会員・準会員の国際交流の機会を数多く創出していけるよう努める。

報告日:2010年10月25日

| | |
|------------------|---------------------------------|
| 行事名 | 第40回 日韓技術士会議 |
| 日時 | 平成22年10月16日～17日 |
| 場所 | 海峡メッセ下関(山口県下関市) 本城運動場(福岡県北九州市) |
| 担当者: (○印:リーダ) | 山中淳至 根本英俊 |
| 参加者数 | 親善サッカー大会 約30名 第5分科会(英語発表) 発表者3名 |

1. 背景・目的

毎年開催されている日韓の技術士交流を目的とした日韓技術士会議にて、青年技術士交流実行委員会は、プレイベントである親善サッカー大会と本会議後の英語発表分科会に協力をしている。

今回、第40回 日韓技術士会議 が下関の海峡メッセ下関をメイン会場に、10/16～18 の日程で、「Green Technology と技術士の関わり」をメインテーマに実施された。10/16に行われた、日本からは親善サッカー大会に約30名、10/17に行われた第5分科会英語発表に3名の青年層からの参加があった。

2. 内容

2-1. 第6回 日韓技術士親善サッカー大会

大会初日の10/16 15:00～17:00、北九州市の本城運動場にて、第6回 日韓技術士親善サッカー大会が実施された。

過去の対戦で日本の勝利は無く、今回も打倒韓国チームを目標に練習を重ねてきた。

日韓両国の技術士会会長他、来賓の方々の挨拶の後、試合開始となった。試合はレギュラーマッチ(20分×2本)とフレンドリーマッチ(20分×1本)が行われた。0-0で迎えたレギュラーマッチの後半約10分、日本チームのコーナーキックからのボールを小野選手がダイレクトで合わせ、ゴールを決めた。その後 GK 山中選手の好守等により韓国チームの猛攻を耐えて逃げ切り、1-0にて日本チームの初勝利となった。フレンドリーマッチは0-0の引き分けであった。

試合終了後のウェルカムパーティには日韓合せて100名を超える参加があり、盛大に行われた。翌10/17、本会議終了後の晩餐会の会場にて優勝杯の授与と MVP 及び敢闘賞の発表があり、日本チームからは小野選手が MVP を、山中選手が敢闘賞に選ばれた。

2-2. 全体会議

全体会議は10/17 9:00～12:00 海峡メッセ下関 10階コンベンションホールにて行われた。冒頭、日韓双方の技術士会が外務大臣表彰を受賞したことの紹介があった。日韓両国の技術士会会長、日韓の実行委員長の挨拶に続き、山口県副知事、下関市長他来賓の方々の挨拶の後、日韓双方の基調講演があり、各々に質疑があった。

日本:伊藤徹氏 「グリーンテクノロジーと技術士の関わり」

韓国:李康建氏 「The Development of Green Technologies and rules of Professional Engineers to realize Green Growth Strategy」

2-3. 第5分科会(英語発表)

10月17日 13:00～17:00 に実施された第5分科会では、田吹座長の司会のもと、日本側3名、韓国側

2名の発表が行われた。発表内容を発表順に下記する。

1) 発表者:根本英俊(関東・化学部門)

題名:The advantage of the Japanese industries impressed through business in China

内容:中国での電線用原材料調査とその結果と労働事情を通じて感じた日本の産業のあり方について

2) 発表者:三留規誉氏(関東・生物工学部門)

題名:Biochemical study of ATP synthase using fusion protein technique

内容:体内のエネルギーを作り出す機能を持つ、ATP合成酵素の構造解析に関する研究成果

3) 発表者:車淳哲氏(消防技術士・技術士事務所 Chars Tech E&C 代表理事)

題名:Introduction to SIL(Safety Integrity Level) Study for Middle East Refinery Project

内容:リスクアセスメントの一つである SIL 手法の概要と韓国内や海外の化学プラントに手法適用した事例紹介

4) 発表者:八百屋さやか氏(中国支部・生物工学部門 修習)

題名:International cooperation at the grassroots level

内容:JICA 活動の紹介と、青年海外協力隊に参加しての、ネパールでコンポスト普及によるごみ減量活動の体験紹介

5) 発表者:崔仁傑氏(土質,基礎技術士・(株)惟信 専務)

題名:Case study on the design and construction of Geotechnical part for Incheon international airport

内容:仁川国際空港建設設計にあたり、地質調査実験を元に基礎工事設計を行った事例紹介

3. 成果と所感

今回、全国から多くの方々の参加があり、また、サッカー経験者もかなり参加されていた。試合には全員が参加することができ、試合を通じた韓国チームとの交流、また試合後のパーティーではより一層の交流を図ることができた。

6回目にして韓国に初勝利という結果は、関東や北陸支部では定期的に活動・交流していることもあり、選手間のチームワークによるものもあったと思うが、選手だけでなく、応援の人も含めた全ての人が「韓国に勝つ」という目標に対して一つにまとまったことが一番の勝因ではないかと考える。

第5分科会には活発な質疑が行われた。日本側からの質疑が多かったため、今後は韓国側の質疑を促す様工夫が必要と感じた。

親善サッカーや懇親会、分科会等を通じて青年層同士の活発な交流が図られた。

4. 今後の展開

サッカー/フットサルについては、さらに活動の輪を広げ、より活発な交流を図っていくべきだと感じる。

継続して活動するには、さらにメンバーを増やす必要があり、今後は技術士や技術士補でない青年層の参加を積極的に受け入れ、これをきっかけに技術士となり、サッカーだけでなく例会などにも参加されることを期待したい。

次回の日韓技術士会議は、韓国 大邱市で行われる。日韓の若手技術士の交流の機会を与えるため、日韓技術士会議行事に参加継続することが、各人の人脈の形成と拡大に役立つものと考えている。

| | |
|-------------------|--|
| 行事名 | YEAFEO 参加による ASEAN 若手技術者との交流 |
| 日時 | 2010 年 11 月 30 日～12 月 2 日 |
| 場所 | Melia Hanoi Hotel (ベトナム・ハノイ) |
| 参加者: (○印:リーダー) | 菅沼泰久、外山篤、一花裕一 |
| YEAFEO 加盟国 | タイ、ブルネイ、カンボジア、ベトナム、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール (招聘国 : 日本、香港、オーストラリア) |

1. 背景・目的

YEAFEO は、The ASEAN Federation of Engineering Organizations (AFEO) の中の若手技術者のコミュニティであり、ASEAN 諸国の若手技術者で構成される。日本を含む太平洋沿岸諸国も招聘国として参画しており、年々コミュニティは拡大している。

ASEAN の若手技術者との交流を目的として、平成 15 年より青年技術士交流実行委員会が募集した派遣者を YEAFEO の Boarding Meeting に参画している。

2. 活動内容

1) Welcome Dinner (11/30 19:00-)

夕方に Registration を済ませた後、19:00 より Welcome Dinner が行われ、参加した。ASEAN 諸国の中でも、シンガポール、マレーシア、ミャンマーの参加団は特に大所帯であり、その大部分が学生会員(現役大学生、10 名の学生も多数)で構成されており、次世代の人材育成にも力を入れている様子が伺われた。

2) YEAFEO Board Meeting (12/1 14:00-)

開催 2 日目の午後に、YEAFEO Board Meeting が開催された。主催国ベトナムの VUSTA (The Vietnam Union of Science and Technology Associations) の代表者が議長を務め、会議が進行された。招聘国である日本と香港(オーストラリアは不参加)はオブザーバーとして参加した。

最初に、昨年の YEAFEO 会議からの保留事項についての議論が行われた。議論された主な内容としては、“YEAFEO の Web サイト作成に関する手続きについて”と、“学生等若者の企業へのインターンシップ支援について”の 2 点であった。次に、参加国(カンボジアとラオスは欠席)のカントリーレポートの発表が行われ、各国の取り組みが紹介された。ASEAN 諸国の発表が終了した後、招聘国の香港と日本がカントリーレポートを行った。

その後プレゼント交換が行われ、各国との交流を深めることができた。

3) 懇親会

YEAFEO Meeting 終了後、近くのベトナム料理屋で懇親会が行われた。昼間の交流とは一味違った和やかなムードの中、お酒を飲みながらさらに深い交流をすることができた。

4) Technical visit (12/2 14:00-)

YEAFEO/CAFEO メンバー合同で、ハノイ市内のハノイ博物館、国際会議場へ出かけた。2010 年に遷都 1000 年を迎えたハノイでは、今年は ASEAN 関連の会議が多数開催されており、我々の移動にもパトカーの先導がつくほどの手厚い待遇であった。

Technical visit では、YEAFEO メンバーのみならず、CAFEO 参加者とも話をして交流を深めることができて有意義な一時であった。

5) Farewell Dinner (12/2 19:00-)

最後にして最大のイベントである Farewell Dinner が、YEAFFEO/CAFEO メンバー合同で盛大に行われた。会の前半は、各国のエンジニアの功績を称える各種授与式が行われ、その後、次回開催国であるブルネイ・PUJA (The Pertubuhan Ukur Jurutera & Arkitek) へ CAFEO Flag の引渡し式が行われた。

高級ベトナム料理とワインを楽しんだ後、ASEAN 諸国から順番に各国の余興の披露して盛り上がった。最後に、会場内の全ての人々が手を取り合って輪を作り、みんなで“**We are the world**”を合唱して会はお開きとなった。

4. まとめ

今回 YEAFFEO に参加して、ASEAN は加盟国同士が非常に良好な関係にある共同体であるということを確認することができた。将来の日本の持続的な成長のためにも、成長著しい ASEAN 諸国との友好関係を維持していくことは非常に重要である。

今後は、日本企業の海外進出のみならず、ASEAN 諸国の優秀な技術者が日本にやってくる機会も増えて、これまで以上に ASEAN 諸国との関係が強まっていくことが予想される。まずは、YEAFFEO のような交流の場を通じて個人レベルでの友好関係を構築し、それをベースにして組織間の交流へとつなげていくことが重要である。

報告日:2011年3月11日

| | |
|-------------------|-----------------------|
| 行事名 | 国際交流:香港工程師学会訪問 |
| 日時 | 平成 23 年 2 月 18 日—20 日 |
| 場所 | 香港工程師学会本部、香港市内 |
| 担当者: (○ 印リーダー) | 武井遼、三留規誉、葛西健司 |
| 参加者数 | 3 名(内委員 2 名) |

1. 背景・目的

二国間交流による青年層の委員会活動の情報交換、青年層の国際意識向上を目的として、2007 年度より、香港 ICE (Institution of Civil Engineers) および香港工程師学会 (The Hong Kong Institution of Engineers) の青年層との交流を継続している。2007 年度は香港 ICE の若手技術者約 10 名が来日し、2008 年度は日本から 3 名の若手技術者が香港を訪問した。2009 年度は 2010 年 3 月に香港より 6 名のエンジニアを迎え、日本にて交流を実施した。2010 年度は、日本から 3 名の若手技術者を派遣した。

2. 内容

2. 1. プレゼンテーション・ミーティング(香港:Ivan、日本側:三留委員)

2月18日(金)18:00-20:00 香港工程師学会本部でミーティングを行った。日本側は三留、武井、葛西、香港側からは Ivan、Annie、Arlene (chairman) が参加した。

香港側から、香港の技術士会についてと青年委員会(YMC)の活動についてのプレゼンがあった。香港の青年委員会は、35歳以下のメンバーで形成されている。このYMCの目的は、①会議テクニカルツアーの企画、②技術者の専門的能力の向上、③若手技術者の香港工程師学会のイベントへの参加、④学生の香港工程師学会への参加の促進、⑤若手技術者向けの各種の活動である。国際交流活動では、これまでに日本、ブラジル、デンマークをはじめとして十数カ国に訪問した実績がある。各国の技術士会やコンサルタント会社に訪問してきた。2011年は、3月にイギリスへの研修旅行を企画している。2008年四川省の地震の際には、YMCでチームを作ってボランティアを派遣して援助活動を行った。香港技術工程師のメンバーは、建設部門の人が多く、倒壊しそうな建物の強度度合いを調査し、復興のための強度技術の指導をした。2010年度には、サッカーイベントの企画、YMCのテーマソングの作詞・作曲、Bandを結成し25周年記念イベントで披露などの活動を行った。

日本側からは、三留委員が日本の技術士の制度と青年委員会の活動および三留委員の技術経験についてプレゼンを行った。日本では、技術士の多くは、理学や工学の教育を受けた後、1次試験と2次試験に合格して技術士になる。2次試験受験のためには、技術業務経験が必要である。青年委員会では、参加者が主体的に参加できる発表会や討論会、講演会を企画している。その他にも、サッカー交流会やビアパーティーといったフランクなイベントも開催して、若手技術者に参加を促している。国際交流活動は、香港、韓国、オーストラリアと2国間交流と国際会議のCAFEO/YEAFEOがある。発表の後半では、三留委員の生物工学の技術経験と国際会議での発表の経験を紹介した。質疑応答で香港側と情報共有を行った。



2. 2. ウェルカムパーティー(18:00~21:00)

Welcome Party に招待された。三留、武井、葛西、Ivan、Annie、Arlene、Ernest、Tim が参加した。小籠包など香港の料理を楽しんだ。

Ernest は現在副委員長で次期委員長となる予定であることから、来年は是非日本へ訪問したいとの事であった。

2. 3. テクニカルツアー Eagle Nestトンネル(2月19日 9:00-12:00)

香港エンジニア青年委員の主催(幹事:Duncan)する、Eagle Nest トンネル(ワシの巣トンネル、中国名:尖山隧道)の見学会(約15名)に同行するかたちで、テクニカルツアーに参加した。

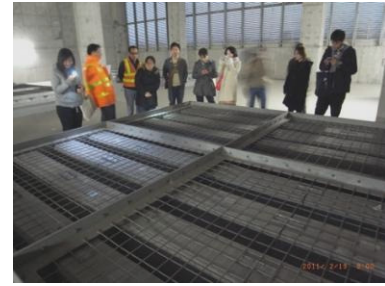
香港エンジニア青年委員の主催する、Eagle Nest トンネル(ワシの巣トンネル、中国名:尖山隧道)の見学会に同行するかたちで、テクニカルツアーに参加した。

同トンネルは、2008年3月21日に開業した新しい施設であり、本土北東部にあたる新界の発展によって今後とも増加するとみられる交通需要予測に基づき、西部港湾地域および新国際空港とをつなぐことを目的に長沙湾(Cheung Sha Wan)と沙田(Sha Tin)の間に位置するワシの巣山に建設された。片道3車線のトンネルが2本並列に並んでおり、延長2.1キロである。総工費は約250億円で日本からは熊谷組などが建設プロジェクトに参画したとのことであった。

今回、我々が見学したのは、北側(料金所)付近にある集中管理室および南側の換気施設である。集中管理室は複数のテレビモニターが設置されており、訪問時は3名の職員が交通状況の監視などにあたっていた。背部にはトンネル内の照明や換気を制御するコントロールパネルがあり、交通状況などに応じて後述する換気設備を制御して、トンネル内の大気状況をコントロールするとの事であった。前面のガラス窓の料金所を見下ろす位置には、料金徴収状況を管理するブースがあり、各ゲートの通過車種による料金の判断と徴収状況が表示されていた。料金の徴収は日本と同様、人手によるものと自動電子収受(日本のETC)によるものと両方の方法があった。



一方、換気施設は北側と南側の両方の出入口およびトンネル中間付近の3箇所があり、出入口の施設は交通量の状況に応じ稼働を調整し、トンネル内に等間隔で設置された通気口(北行きトンネル:140箇所、南行きトンネル:144箇所)と施設間で空気の交換を行う。トンネルの中間付近にある施設は、通常施設が稼働不能となった場合やトンネル内で火災が発生した場合などに使用する非常用施設であり、換気は排気機能のみである。訪問時は交通量が少なかったため、強制換気の必要がないことから換気装置は稼働していなかったが、稼働時には会話が聞こえないほどの騒音が出るとの説明があった。換気装置の最上部はハニカム構造のフィルターが設置されており、通気が効率的に行われるとともに防音効果を持たせているとのこと。



香港と接する中国大陸経済特区(深圳市)を介した交易が盛んとなり、物量の移動需要が増加するとともに道路や鉄道網の開発が進んでおり、また香港北部地区も発展しておりことから今回見学したトンネルの重要性が増していることが理解できた。鉄道や道路の整備など将来を見据えた大規模なインフラ整備に取り組む際に、長期的視野に基づいた国家プロジェクトの重要性を改めて実感した。

2. 4. オリエンテーリング 2月19日(土) 13:00-20:00

香港の若手技術士(Ivan、Emily、Tim)と共にテクニカル・カルチャーツアーを行った。コースは、我々の希望をもとにして、電車、地下鉄、トラム、フェリー、路面電車を使得、香港らしい町並みを見ながら、効率よく廻った。

2. 4. 1 香港鐵路博物館

旧 Tai Po Market 駅施設内に建設された博物館で、香港鉄道の歴史を紹介している。蒸気機関車が展示してある。写真撮影のスポットにもなっているようで、ウェディングドレスを着たカップルが2組ほど撮影に使用していた。車両の構造など、日本の旧型車両と類似点が多かった。



2. 4. 2 ヴィクトリア・ピーク

夕方 16:00 頃に、100 万ドルの夜景で知られる香港の観光スポットのヴィクトリア・ピークへ、ピークトラムに乗車して向かった。しかし、あいにく濃霧の影響で街並みはあまり見えなかった。ピークトラムは、最大約 45 度の急こう配を走行した。単線で 2 台のトラムが運行しており、複線化した中央ですれ違うようになっていた。



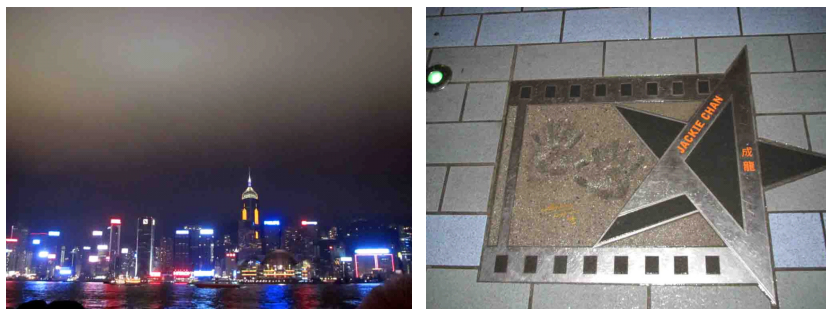
2. 4. 3 スターフェリー乗船

スターフェリーに乗船し、香港島と九龍半島の間での Victoria Harbor 内を航行した。このスターフェリーを香港の観光の定番のようだ。日没後で美しい夜景を見ることができた。乗船にはフェリー専用のトークンを購入した。



2. 4. 4 アベニュー・オブ・スターズ散策(シンフォニー・オブ・ライツ鑑賞)

香港島を臨む海岸沿い 1km の散策路に香港映画の歴史と俳優・監督の銅像が展示されている。シンフォニー・オブ・ライツでは、ビルから光線が飛び交い、15 分間のショーを展開している。



3. 成果と所感

テクニカル・カルチャーツアーでは、大変親切に香港市内を案内していただいた。香港市内には高い建物が非常に多い。香港には様々な交通機関があり、うまく組み合わせると非常に便利である。切符の購入、乗換が容易であった。近代的で便利な地下鉄・バスと、ゆっくり旅を楽しめるトラム・フェリーの調和が良い。

1997年に香港が中国に返還されてから10年以上の歳月が流れるが、かつての英国統治下の時と比較して、経済的な発展と人々の活気が衰えることはなく、数々の建造物はこの国の発展を象徴しているようである。今回交流させて頂いた香港メンバーの中にはカナダなどの海外に留学や移住した経験のある人々もおり、中国返還時に香港を一旦離れた国民が、改めて自国に戻ってきていることを説明してくれた。香港に関しては中国による統治が成功しているとの印象を持った。

今回の訪問で CPD 活動と関連させた見学会の主催など香港青年委員会(YMC)の活動の一端を垣間見ることができ、今後の我々の活動にも生かせるよう情報交換を継続して行きたいと感じた。

4. 今後の展開

香港の YMC は、年齢層が若く活動的であった。香港の若手技術者と継続的に交流をして行きたい。20名ほどのメンバーが運営しており、委員長は一年交代の持ち回りで行っており、次年度は現在副委員長である Ernest が委員長となる予定とのこと。

先方も来年は来日することで予定してくれており、今回コーディネートしてくれた Ivan および来日時には委員長である Ernest、昨年来日時に委員長であった Leo とコンタクトを取りながら、次回の香港交流企画に継続して行きたい。


以上


文責 武井遼 三留規誉


青年技術士交流実行委員会 委員名簿


2010年7月～2011年6月


| No | No | 委員資格 | 役割 | 部門 | 氏名 |
|----|----|----------|------------------|------------------------|--------|
| 1 | 1 | 委員 | | 機械 | 中嶋 秀朗 |
| 2 | 2 | 委員 | | 機械 | 中垣 隆雄 |
| 3 | 3 | 委員 | | 機械 | 山地 真吾 |
| 4 | 4 | 委員 | | 機械 | 関 卓史 |
| 5 | 5 | 委員 | | 電気電子 | 仁田 晃人 |
| 6 | 6 | 委員 | | 電気電子 | 石関 学 |
| 7 | 7 | 委員 | | 電気電子 | 鷹尾伏 亮 |
| 8 | 8 | 委員 | | 電気電子 | 横井 弘文 |
| 9 | 9 | 委員 | | 化学 総合技術監理 | 根本 英俊 |
| 10 | 10 | 委員 | | 金属 | 高橋 政治 |
| 11 | 11 | 委員 | 委員長 | 建設 | 田村 裕美 |
| 12 | 12 | 委員 | | 建設 総合技術監理 | 松本 正人 |
| 13 | 13 | 委員 | 副委員長 | 上下水道 衛生工学 総合技術監理 | 鳶田 泰彦 |
| 14 | 14 | 委員 | 会計 | 衛生工学 | 横田 幸利 |
| 15 | 15 | 委員 | | 水産 | 北條 健一 |
| 16 | 16 | 委員 | 支部交流G リーダー | 経営工学 | 武井 遼 |
| 17 | 17 | 委員 | | 経営工学 | 春日 桂一郎 |
| 18 | 18 | 委員 | | 経営工学 | 鈴木 史人 |
| 19 | 19 | 委員 | IT・広報G リーダー | 情報工学 | 石井 利教 |
| 20 | 20 | 委員 | | 情報工学 | 金子 淳一 |
| 21 | 21 | 委員 | 国際交流G リーダー | 生物工学 | 三留 規誉 |
| 22 | 22 | 委員 | 副委員長/ 例会Gリーダー | 原子力・放射線 | 山中 淳至 |
| 23 | 23 | 支部委員・北海道 | | 建設 | 樋詰 透 |
| 24 | 24 | 支部委員・東北 | | 建設 農業 | 開米 浩久 |
| 25 | 25 | 支部委員・北陸 | | 建設 | 大塚 直吉 |
| 26 | 26 | 支部委員・中部 | | 経営工学 | 高瀬 春之 |
| 27 | 27 | 支部委員・中四国 | | 上下水道 環境 総合技術監理 | 高木 周一 |
| 28 | 28 | 支部委員・九州 | | 建設 | 持田 拓児 |
| 29 | 1 | 委員補佐 | | 経営工学 | 宮本 忠博 |
| 30 | 2 | 委員補佐 | | 建設 | 渡辺 弘毅 |
| 31 | 3 | 委員補佐 | | 化学 | 渡辺 春菜 |
| 32 | 4 | 委員補佐 | | 化学 | 平原 賢志 |
| 33 | 5 | 委員補佐 | | 情報工学 | 藤井 佳直 |
| 34 | 6 | 委員補佐 | | 機械 | 松永 温史 |
| 35 | 7 | 委員補佐 | | 化学 | 末廣 多恵子 |


| | | |
|-------|--|---|
| 氏名 | 山地 真吾 (やまじ しんご) |  |
| 技術部門 | 機械部門 | |
| 役割 | 企画担当 | |
| 勤務先 | フリーコンサルタント (事業管理、技術、知的財産) | |
| 専門技術 | 自動車エンジン・ロボットに関するメカニカル設計 | |
| 趣味・特技 | 趣味：読書、お酒、ネタ探し、競馬 特技：剣道、勢いだけの行動 | |
| メッセージ | <p>青年委員会のツッコミ担当を自負して余年、飽きられようが言い続けます(笑)</p> <p>「いい意味での技術者らしくない技術者」となるべく日々研鑽に励んでおります。もちろん夜な夜な飲み歩くのは立派な研鑽の一環です (強調)</p> <p>日本技術士会における青年委員会のポジションはここ数年で目まぐるしく変化し、連れて向けられる目や期待度も相当に変化しています。変化に柔軟に対応して期待にこたえるだけでなく、更の一つ先ゆく新たな価値を生み出していけたら、と考えております。そうした活動の一助を担えれば幸いです。</p> <p>----</p> <p>「...まずは自分のことを頑張れよ」という自己ツッコミは2年連続でやりました。昨年の目標を達成すべく当日受験会場に行ってまいりました。そして、今期からは技術士として活動に携わります。</p> | |


| | | |
|-------|--|---|
| 氏名 | 横井弘文 |  |
| 技術部門 | 電気電子部門 | |
| 役割 | 委員 | |
| 勤務先 | 日本電信電話株式会社 サービスインテグレーション基盤研究所 | |
| 専門技術 | 情報通信、特に公衆ネットワーク | |
| 趣味・特技 | ライフログ (自分の時間と健康のPDCA) | |
| メッセージ | <p>2010年度の所感と反省</p> <p>合宿形式の運営委員会の幹事役を担当したことが、最大の成果だと考えています。そこでは、通常の運営委員会に加えて、「例会のあり方」を議論しました。例会の目的や、顧客とは誰かを皆で議論したことで、その後の例会の方針を決めることができました。そして、例会が、単発のイベントではなく、総会の目的に沿った連携の施策に位置付けられたと思います。</p> <p>メンバーの入替えの際には、早いうちに深い意識合わせを行うと良いでしょう。合宿は一つの方法です。一晩ずっと話すと、いろいろ分かります。今回の合宿での反省として、一つ紹介します。参加者には一体感が生まれますが、参加できなかったメンバーには乗り遅れた感じが生じかねません。追いかける工夫も合わせて実施すると良いでしょう。</p> <p>今年度で定年を迎えますので、今後は青年委員会の活動を同僚や知人に紹介していきます。</p> | |


| | | |
|-------|--|---|
| 氏名 | 根本 英俊 |  |
| 技術部門 | 化学部門、総合技術監理部門 | |
| 役割 | ～2011委員 | |
| 勤務先 | 日立電線株式会社 | |
| 専門技術 | 高分子材料の加工 | |
| 趣味・特技 | 休止中の趣味：年に一回のスキー、四年ブランク中の水上スキー、飾りと化してる船舶免許保有(2級小型)。 | |
| メッセージ | <p>とうとう青年の定年？の年になってしまいました。2008年から約3年間、皆様にはお世話を掛け通してでした。青年委員会50周年記念大会や下関での日韓大会での発表等、色々な経験をさせて頂きました。</p> <p>また、香港など海外のエンジニア、中小企業診断士や、Crossover21といった技術士以外の方々との交流の場を与えて頂きました。</p> <p>青年委員会の魅力は、現役世代による異業種交流にあります。様々な立場、経験を持つ方との交流は、何物にも替え難い学びの場を与えてくれます。</p> <p>この素晴らしい青年委員会の維持、発展を引き継がれた委員の皆様をお願い致します。</p> <p>青年委員は定年？致しますが、引続き青年委員会を通じて知り合った皆様とのご縁を大切にしたいと思います。</p> | |


| | | |
|-------|--|---|
| 氏名 | 田村 裕美 |  |
| 技術部門 | 建設部門(建設環境) | |
| 役割 | 委員長 | |
| 勤務先 | 技術士事務所mugi/環境経済株/(社)カーボンマネジメント・アカデミー | |
| 専門技術 | 一般廃棄物、緑化、地球温暖化防止 | |
| 趣味・特技 | 野菜作り、ジョギング、濫読、微酔 | |
| メッセージ | <p>技術士補だった委員補佐時代から6年ほどの月日が流れました。</p> <p>二次試験に合格できたのも、起業できたのも青年委員会の運営に携わったため、といっても過言ではありません。様々な交流を通して多くのことを学び、得ることが出来ました。</p> <p>3年前委員長を拝命した時、知る人ぞ知る委員長ブログを立ち上げました。そこにはいろいろな事を感じ、考えながら楽しそうに委員長を続けてきた自分がいました。</p> <p>50周年イベントの苦勞から始まり、歴代委員長悲願の日韓初勝利、締めは全国大会東京開催と本当にドラマチックな時代に居合わせた幸運を今更ながら噛みしめています。</p> <p>これも委員会メンバーはもちろん、地域本部の青年幹事及び技術士会の皆様のご指導ご支援があったからこそです。この場を借りて、皆様に深く感謝申し上げます。</p> <p>当初の計画通り青年委員会は後進に任せ、私はまた新たなステージに進みたいと思います。</p> <p>今後、青年委員会がどのように進化するのか楽しみにしています。</p> | |


| | | |
|-------|--|---|
| 氏名 | 松本正人 |  |
| 技術部門 | 建設／総合技術監理部門 | |
| 役割 | 国際交流アドバイザー | |
| 勤務先 | NEXCO-West USA, Inc. | |
| 専門技術 | 道路橋維持管理、国際トレーディング | |
| 趣味・特技 | サッカー、マラソン、国際人脈形成 | |
| メッセージ | <p>2011年より、米国の首都ワシントンDCに拠点を置く現地法人に勤務し、米国連邦政府の研究プロジェクトへの参加、技術営業、道路関連技術の国際トレーディングなどを行っています。</p> <p>青年委員会では、2007年度より主に国際交流とスポーツ交流を担当してきましたが、技術士会のイベントを通じて国内外でさまざまな経歴をお持ちの技術者仲間と知り合うことができ、大きな刺激を受けることができました。</p> <p>青年委員会の活動を通じて得たスキルは、遠く米国の地で新しい会社を営んでいく上でも大いに役立っています。</p> <p>これからも青年委員会は若手技術者の交流・研鑽という意味で大きな役割を担っていると信じています。</p> | |


| | | |
|-------|--|---|
| 氏名 | 畠田 泰彦(しまだ やすひこ) |  |
| 技術部門 | 上下水道部門、衛生工学部門、総合技術監理部門 | |
| 役割 | 委員（副委員長、広報担当） | |
| 勤務先 | オルガノ(株) | |
| 専門技術 | 用水・排水処理システム、微生物を使った浄化 | |
| 趣味・特技 | エクセルのマクロ作成 専門古書収集 | |
| メッセージ | <p>委員に加えさせていただいてから、早2年が経過しました。忙しいながらも充実した時間が過ごせていると感じています。きっかけは、ちょっとした巡り合わせでしたが、とてもおもしろい方々と知り合うことができ感謝しています。</p> <p>まず1歩踏み出すことが重要だったなあとと思うのですが、同時にそうした思いを伝えるのもなかなか難しいと感じています。</p> <p>今後もいろいろな方との出会いを大切にしながら、やっていきたいと思いません。</p> | |

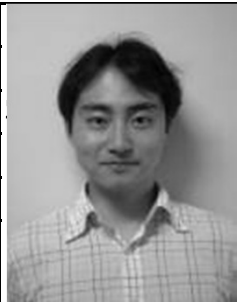
| | | |
|-------|---|---|
| 氏名 | 横田幸利 |  |
| 技術部門 | 衛生工学部門 | |
| 役割 | 委員 | |
| 勤務先 | 東京二十三区清掃一部事務組合 | |
| 専門技術 | 廃棄物処理施設及び環境装置の設計、運転管理 | |
| 趣味・特技 | 趣味：道具だけ増えていく釣り、弾かないウクレレ 特技：よく道に迷うこと | |
| メッセージ | <p>2010年は、自宅の町会役員、奥さんが地域子ども会や幼稚園の役員になるなど、一家で地域の集まりに引っ張られた一年でした。本来、委員2年目としてもう少しがんばるはずでしたが、2011年も委員を継続することになりましたので、3年目にて挽回していきたいと思います。</p> <p>仕事の方は、今年から清掃工場の建替工事のため現場勤務中です。再び、工事の予定に振り回される日々となってしまう、早くも暗雲？立ち込めるスタートです。なんとか乗り越えて、活動に励みたいと思います。</p> <p>青年委員会に参加し、2年目は委員どうしも打ち解け合い活動ができたかなと思います。今後も新たな委員を迎え、また新しい気持ちで2年間の活動に取り組んでいきたいと思っていますのでよろしくお願いします。</p> | |


| | | |
|-------|---|---|
| 氏名 | 武井 遼 |  |
| 技術部門 | 経営工学部門 | |
| 役割 | 支部交流グループ | |
| 勤務先 | ADEKAクリーンエイド（株） | |
| 専門技術 | プロジェクトマネジメント・生産管理・事業再生 | |
| 趣味・特技 | 放浪旅・食べ歩き・呑み歩き 何時でも何処でもどこでも寝られる | |
| メッセージ | <p>青年委員になり、早二年が経ちました。</p> <p>生まれもって、組織や規則といった類は不得手な小生が、青年委員会の中で何とかやって来られたのも、支部を含めた関係者の皆さま方のお力添えのおかげです。青年層の定年まで残りあと二年、引き続きお付き合いのほどよろしくお願いいたします。</p> <p>といった、形式的なご挨拶はさておき・・・</p> <p>次年度は委員の大幅な交代もあり大変心細い限りですが、引き続き委員会を継承する我々で、二年後も青年技術士交流実行委員会の活動が楽しく魅力あるものとして引き継げることが出来たらイイなあ、と考えております。</p> <p>まあ、ポチポチやって行きましょ！！</p> | |


| | | |
|-------|---|---|
| 氏名 | 春日 桂一郎 |  |
| 技術部門 | 経営工学部門 | |
| 役割 | 委員、テクノツーリズム企画 | |
| 勤務先 | 株式会社三菱総合研究所 | |
| 専門技術 | 調査・コンサルティング業務の質保証、BPR | |
| 趣味・特技 | ベースギター、野球、サッカー審判（4級） | |
| メッセージ | <p>2011/5で満45歳になったため、2010/6から2011/5までの1年間限定の活動でした。</p> <p>青年委員としての活動は、まさに「ハレ」の活動でした。日常業務では知り合えない方々と交流し、さまざまな世界を見聞しました。青年委員の立場をお借りして、日常業務としてはできないような「実験」も行いました。活動する機会をいただかなければ、そしてそれなりの決意をして時間と労力を投入しなければ、決して得られなかったものばかりです。</p> <p>この青年委員としての活動をもとに、研鑽を重ね、技術士として社会に役立つことができれば幸いです。</p> <p>最後に、1年間の活動を共にさせていただいた委員長、副委員長、委員、委員補佐の皆さん、さらに、活動を通じて知り合いとなった皆さんに、感謝申し上げます。皆さんとの交流は、これからは本番です。</p> | |


| | | |
|-------|---|---|
| 氏名 | 鈴木 史人（すずき ふみと） |  |
| 技術部門 | 経営工学部門 | |
| 役割 | 国際Gr | |
| 勤務先 | （株）東芝 | |
| 専門技術 | 半導体の品質管理 | |
| 趣味・特技 | 趣味：サッカー観戦、散策 特技：卓球 | |
| メッセージ | <p>委員としては2期目に突入しました。経営工学部門だけでなく、様々な部門の技術士との交流が最も刺激になっています。業種が違うだけで考え方のアプローチも異なり、社内での業務改善でも参考になることが多いと感じています。</p> <p>青年委員会での交流を大切にしていきたいと思います。</p> <p>今後ともよろしく願いいたします。</p> | |


| | | |
|-------|---|---|
| 氏名 | 石井 利教 |  |
| 技術部門 | 情報工学部門 | |
| 役割 | 委員（広報・ITG） | |
| 勤務先 | NTTコミュニケーションズ株式会社 | |
| 専門技術 | 情報ネットワーク（インターネット） | |
| 趣味・特技 | カート、自転車、BMX、旅行（国内、海外） | |
| メッセージ | <p>青年技術士交流実行委員会のスタッフとなり早2年が過ぎました。青年委員会の面白いところは、幅広い専門をもった方々といろいろな議論をすることができることに尽きます。専門の議論は各部会で、普段は出会わないような分野での議論は青年委員会、と全く違った魅力がありました。自分が専門でない部分での議論のコーディネーションは非常に緊張感があり、新鮮な気持ちで議論に挑むことができました。</p> <p>この2年間、周りの皆さんについていくのがやっとだったというのが正直なところですが、なんとか経験は積めてきましたので、これからは自分たちのオリジナリティーのある活動をどれだけ作っていけるか考えなくてはなりません。昨年度に実施した北陸支部と本部とのTV会議による日韓報告会の実施などは、支部の方との生の意見交換ができたという意味で重要な第一歩だったと思っています。</p> <p>新しい人との出会いや、この2年間の経験をもとに自分たちが青年委員会の新しい歴史を作っていくことを楽しみにしています。</p> | |


| | | |
|-------|---|---|
| 氏名 | 三留規誉（みとめのりよ） |  |
| 技術部門 | 生物工学 | |
| 役割 | 国際交流 | |
| 勤務先 | 宇部工業高等専門学校 | |
| 専門技術 | 生化学、遺伝子工学、タンパク質工学、分子モーター | |
| 趣味・特技 | サーフィン、スキューバダイビング、マラソン | |
| メッセージ | <p>青年委員会で活動することで、さまざまな人と交流を持つことができ、自分の世界が広がった。昨年の10月から宇部高専に赴任したが、日韓技術士会議をきっかけにして山口県技術士会の方とも交流が広がった。先輩技術士や仲間の技術士から協力が得られて、仕事にもプラスになっている。国際交流に興味があるので、引き続き国際交流関係で貢献したい。</p> | |


| | | |
|-------|---|---|
| 氏名 | 山中 淳至（やまなか あつし） |  |
| 技術部門 | 原子力・放射線部門 | |
| 役割 | 副委員長、例会Grリーダー、サッカー担当 | |
| 勤務先 | （独）日本原子力研究開発機構 | |
| 専門技術 | 使用済燃料の再処理に関する運転管理と研究開発 | |
| 趣味・特技 | 趣味：旅行、食べ歩き、旅行先での犬の散歩 特技：サッカー | |
| メッセージ | <p>今期の一番の思い出はなんといっても下関での日韓サッカーの初勝利ですね。</p> <p>これは皆さんが継続して活動していた成果だと思います。私も小学校から続けていたサッカーが青年委員会の活動に役立つとは思いませんでしたが、何事も続けていくことは大切ですね。</p> <p>2009年に部会推薦を受け、よく分からないまま始めた青年委員の活動は色々な世界や全国各地の皆さまと知り合うことができ、いい刺激を受けながらあつという間に2年が立ちました。</p> <p>もうしばらく皆さまと一緒に活動したいと思っております。まずはこれ以上太らないようにしないと。。。</p> | |


| | | |
|-------|---|---|
| 氏名 | 樋詰 透 |  |
| 技術部門 | 建設部門 | |
| 役割 | 北海道支部 青年技術士交流委員長 | |
| 勤務先 | 北電総合設計株式会社 土木部 | |
| 専門技術 | 土質及び基礎 | |
| 趣味・特技 | アイスホッケー、ジョギング | |
| メッセージ | <p>ご無沙汰をしています！（前）北海道青年交流委員会委員長の樋詰です。今年の5月をもちまして、8年間在籍しておりました、青年技術士会を無事卒業することができました。</p> <p>全国交流においては昨年、一昨年にわたり、みなさま方と多くの交流ができましたこと、非常にありがたく感じております。</p> <p>これからは、北海道本部にて北海道スタンダード研究会に所属し、新たな発信を行って行きたいと考えております。</p> <p>みなさま方との再会を全国大会in札幌でお待ちしています！ではまた！！</p> | |

| | | |
|-------|---|---|
| 氏名 | 開米 浩久 |  |
| 技術部門 | 建設部門、農業部門 | |
| 役割 | 東北支部 青年技術士懇談会 代表幹事 | |
| 勤務先 | 株式会社 復建技術コンサルタント | |
| 専門技術 | 河川及び海岸構造物設計 | |
| 趣味・特技 | 野球（プレー、観戦、審判等 全部） | |
| メッセージ | <p>平成23年3月11日に発生した『平成23年東北地方太平洋沖地震』で被害に遭われました皆様には、心よりお見舞い申し上げます。</p> <p>東北支部青年技術士懇談会のメンバー全員が震災復興に関わっています。被災地の1日も早い復興のため、青年技術士懇談会は本年の活動を休止し、各メンバー所属企業の復興支援業務を優先することを決定しました。したがって、技術士会活動は最小限とすることをご理解ください。</p> <p>私事ですが、当社 復建技術コンサルタントは、日本技術士会、建設コンサルタント協会、全国上下水道コンサルタント協会の東北支部長 所属会社として、震災復興の幹事役を仰せつかり、復興関連業務に取り組んでおります。</p> <p>本震災は甚大且つ広範囲で長期の災害査定が組まれています。査定設計は本年中の完了を目指しますが、実施設計は数年間を要すと予想され、当社が担う設計作業の期間短縮こそが早期の被災地復興に貢献できると考えております。</p> | |


| | | |
|-------|---|---|
| 氏名 | 大塚 直吉（おおつか なおきち） |  |
| 技術部門 | 建設部門 | |
| 役割 | 支部委員（北陸支部青年技術士委員長） | |
| 勤務先 | 株式会社本間組 | |
| 専門技術 | 施工計画、施工設備及び積算 | |
| 趣味・特技 | テニス、将棋 第38回日韓技術士会議（新潟開催）からサッカーを始める | |
| メッセージ | <p>こんにちは！北陸支部の大塚です。 青年活動の最終年度である2010年度は、以下の活動に参加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月 拡大委員会&テクノツーリズム（東京都、天王洲アイル他） ・ 8月 サッカー交流会&テクノツーリズムin新潟（地質と地形） ・ 9月 第37回全国大会（三重県四日市） ・ 10月 第40回日韓技術士会議（山口県下関市） ※初勝利に乾杯！ ・ 12月 サッカー交流会&テクノツーリズムin栃木（足利学校他） <p>開催地の委員長をはじめ青年各位に誌面を借り改めて感謝申し上げます。「よく遊びよく学べ」を実践するサッカー交流が定着し、全国の皆様と北陸の青年技術者層が今後つながりを深めることを望みます。</p> <p>小生の住む新潟市はその魅力として以下を掲げております。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 湊町文化ただよ柳都の風情 ② 都市と田園のハーモニー ③ 海と大地の恵み食と花の都にいがた <p>皆様もぜひ新潟で「食の美味さ」をはじめとする「うまさぎっしり新潟」を堪能していただければ幸いです。</p> | |


| | | |
|-------|--|---|
| 氏名 | 高瀬 春之 (たかせ はるゆき) |  |
| 技術部門 | 経営工学部門 | |
| 役割 | 中部青年技術士会 代表幹事 (2010年度～) | |
| 勤務先 | ソニーイーエムシーエス (株) 東海テック 幸田サイト | |
| 専門技術 | ①QCDESの計画、管理及び改善 ②設備マネジメント | |
| 趣味・特技 | スキー (モーグル)、空手 (初段) マーじゃん、お酒 | |
| メッセージ | <p>全国本支部の皆様こんにちは。中部青年技術士会代表幹事の高瀬です。今年で代表幹事に就任してから2年目になります。</p> <p>昨年の代表初年度を振り返ると、最初に思い出すのが技術士全国大会です。いきなり技術士の大イベントである全国大会青年イベントを任せられ、あの短い準備期間で、専門である経営工学手法を駆使し、完遂することができたことをうれしく思っています。自分を褒めると同時に共に協力をしてくださった中部の幹事・会員・OBの方々や各本支部の皆様本当に感謝する1年だったと思います。</p> <p>今年度は、全国大会で培った結束力をそのまま維持継続し、引き続き中部青年技術士会の意志をしっかり背負うと同時に各本支部の方々とも積極的に交流を図っていききたいと思っています。また、来年度開催される日韓技術士会議名古屋大会に向けても準備していききたいと思っています。</p> <p>まだまだ足りない部分の多い代表ですが、どうぞよろしくお願ひします。</p> | |


| | | |
|-------|--|---|
| 氏名 | 高木 周一 |  |
| 技術部門 | 上下水道部門・環境部門・総合技術監理部門 | |
| 役割 | 支部委員 (中国本部 青年技術士交流委員長) | |
| 勤務先 | 株式会社 荒谷建設コンサルタント | |
| 専門技術 | 下水道設計 (浸水対策・氾濫解析)、再生可能エネルギー | |
| 趣味・特技 | 野菜づくり | |
| メッセージ | <p>2009年の6月から中国支部で青年技術士交流委員長を務めさせていただいている高木です。今年の6月で無事に2年間の任期を全うしましたが、青技交メンバーから“高木にもう一期やらせてやろうじゃないか”という意見が出ましたので、もう少しだけ頑張ります (泣)。</p> <p>中国本部青年技術士交流会は、平成16年6月に設立され、今年で7周年を迎えることとなりました。本会では、毎月1回の勉強会を中心に活動しておりますが、設立当初5～6人だった参加者も今は20～30人になりました。多くの若手技術者に社外活動の楽しさを体験してもらえるのが、最大の喜びになっております。今後も青技交の発展のために精一杯頑張っていきたいと思っております。</p> | |


| | | |
|-------|--|---|
| 氏名 | 持田 拓児 |  |
| 技術部門 | 建設部門（トンネル） | |
| 役割 | 九州支部 青年技術士交流委員会 委員長 | |
| 勤務先 | 株式会社和晃地質コンサルタント | |
| 専門技術 | トンネル設計、地質調査、地盤解析 | |
| 趣味・特技 | 野球、ラグビー、ホークス観戦、ピアノ | |
| メッセージ | <p>2年前より九州支部青年技術士交流委員会の委員長をさせていただいております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活気あふれた定例会 ・自由な意見を出し合える雰囲気作り ・知名度アップのための地道な活動 <p>を常に念頭に置いて活動を行なっております。九州と本部及び他支部とのパイプ役になれるよう努力したいと思っております。どうぞ、宜しくお願い致します。</p> | |

| | | |
|-------|--|--|
| 氏名 | | |
| 技術部門 | | |
| 役割 | | |
| 勤務先 | | |
| 専門技術 | | |
| 趣味・特技 | | |
| メッセージ | | |

| | | |
|-------|--|---|
| 氏名 | 宮本忠博 |  |
| 技術部門 | 経営工学部門 | |
| 役割 | 委員補佐 | |
| 勤務先 | 三菱マテリアル(株) | |
| 専門技術 | 品質管理、品質保証、品質工学、ISO9001 | |
| 趣味・特技 | インストラクター（エアロビクス、フィットネスタイチャー） スポーツ観戦、旅行、思想分析など。 | |
| メッセージ | 2008年末から青年技術士交流実行委員会に参加しております。本業で全国を飛び回っていることに加えて社会貢献活動などで、2009年度、2010年度とも、思うような活動が出来ておりません。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 氏名 | 渡邊 弘毅 (わたなべひろき) |  |
| 技術部門 | 建設部門、総合技術監理部門 | |
| 役割 | 委員補佐 | |
| 勤務先 | いであ株式会社東北支店 建設コンサルタント事業部 | |
| 専門技術 | 自然環境の保全・再生及び創出/住民参加型かわづくり | |
| 趣味・特技 | 趣味：キャンプ、自転車、家庭菜園、麺類たべあるき 特技：土地勘、焚き火、手打ちうどん | |
| メッセージ | <p>現在、仙台で勤務しております。</p> <p>今年は、3. 11 東日本大震災を経験し被災地での技術者として貢献して行きたいと考えています。</p> <p>2008年6月から本部青年技術士交流実行委員会に委員補佐として、9月からは東北支部青技懇幹事として、東京と仙台間の情報伝達役を行っています。</p> <p>参加のきっかけは、2007年日韓交流ソウル大会への参加からでした。</p> <p>2007年6月の日韓新潟大会への韓国側下見のための来日時に、日本側下見部隊として参加したのが、青年委員会加入の直接的な理由です。</p> <p>今となっては、青年委員会の活動が楽しく、また人脈形成や自己研鑽にも非常に役立っていると感じます。</p> <p>仙台に転勤以前は、海外事業部所属で、東南アジア諸国をメインとした業務に7年従事して参りました。主として「ラオス国」に足かけ5年通っており、業務の最終年度には、土日は現地人の家にホームステイし文化にどっぷりと浸かっていました。</p> <p>国際展開には、非常に興味があります。</p> | |

| | | |
|-------|---|---|
| 氏名 | 藤井 佳直 (ふじい よしなお) |  |
| 技術部門 | 情報工学部門 | |
| 役割 | 委員補佐 | |
| 勤務先 | 株式会社 富士通北陸システムズ | |
| 専門技術 | データベースの設計及び構築 | |
| 趣味・特技 | 趣味：読書、ウィンドーショッピング、サッカー 特技：サッカー | |
| メッセージ | <p>青年委員会の活動を通して、全国の技術士及び技術者の方と交流を深めることができます。</p> <p>特に青年委員会でのサッカー交流によって、サッカーを通していろんな技術者の仕事に対する考え方や自己啓発の方法を知ることができるので、とてもよい刺激になってます。</p> | |

| | | |
|-------|--|---|
| 氏名 | 末廣 多恵子 (すえひろ たえこ) |  |
| 技術部門 | 化学部門 | |
| 役割 | 委員補佐 | |
| 勤務先 | パシフィックコンサルタンツ株式会社 | |
| 専門技術 | ごみ処理、水処理、地球温暖化対策 | |
| 趣味・特技 | スキューバダイビング、旅行、読書 山登り、ジョギング (今年のGWからはじめました！) | |
| メッセージ | <p>2009年度より委員補佐としてお手伝いしています。</p> <p>「技術士受験資格ないんです～」の言い訳の有効期限、残り一年となりました。</p> <p>来年度より7・8月は右腕トレーニングに励みます。</p> <p>JABEE出身技術士を増やすべく、がんばります！</p> <p>2010年度は国際グループサブリーダー、ミニ例会の幹事、全国大会の青年のつどい懇親会の幹事など、交流部門を主に担当させていただきました。</p> <p>引き続き、多くの方と交流するとともに、形成した人脈で面白いことができればと思います。</p> <p>よろしくおねがいします！</p> | |